

林町事務所兼倉庫建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

# 宮西・一角遺跡

(第7次調査)

2018年12月

有限会社 KAZU 空調  
高松市教育委員会

## 例　　言

1. 本報告書は、林町事務所兼倉庫建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書であり、高松市林町に所在する宮西・一角遺跡第7次調査の報告を収録した。
2. 発掘調査地及び調査期間、調査面積は下記のとおりである。

調査地：高松市林町字宮西6番8、51  
調査期間：平成30年2月21日～3月3日  
調査面積：約325m<sup>2</sup>
3. 発掘調査及び整理作業は、高松市創造都市推進局文化・観光・スポーツ部文化財課文化財専門員梶原慎司及び同課非常勤嘱託職員三輪望が担当した。
4. 本報告書の執筆は、第I・II章、第III章第1～3節、第IV章を梶原、第II章第2節、第III章第4節、第IV章を三輪が担当した。編集は梶原・三輪が担当した。
5. 本報告書の高度値は海拔高を表し、方位は座標北を表す。
6. 遺構断面の注記の色調及び土器観察表の色調は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖36版』を参照した。
7. 本報告書の挿図として、高松市都市計画図2,500分の1「上林町」及び国土地理院地形図2万5千分の1「高松南部」を一部改変して使用した。
8. 発掘調査で得られた全ての資料は、高松市教育委員会で保管している。
9. 本報告書の作成にあたり、下記の関係者の協力を得た。記して謝意を表したい。(順不同・敬称略)  
信里芳紀、乗松真也
10. 遺物の時期比定は主に次の文献を参照した。

尾上 実 1983「南河内の瓦器査」『藤澤一夫先生古稀紀念古文化論叢』藤澤一夫先生古稀紀論集刊行会  
片桐孝浩 1992「考察 一古代から中世にかけての土器様相一」『川津元結木遺跡』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター  
佐藤竜馬 2000「高松平野と周辺地域における中世土器の編年」『空港跡地遺跡IV』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・香川県土地開発公社  
信里芳紀 2002「讃岐地域における弥生時代前期から中期前半の様相」『弥生時代前期・中期初頭の動態』第16回古代学協会四国支部研究大会研究発表要旨集  
太宰府市教育委員会編 2000『太宰府条坊跡XV』太宰府市の文化財第49集

## 目 次

<b>第Ⅰ章 調査の経緯と経過</b>	
第1節 調査の経緯	1
第2節 調査の経過	1
<b>第Ⅱ章 地理的・歴史的環境</b>	
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
<b>第Ⅲ章 調査の成果</b>	
第1節 調査方法	11
第2節 基本層序	11
第3節 遺構・遺物（弥生時代）	11
第4節 遺構・遺物（中世）	26
第IV章 まとめ	45

## 挿 図 目 次

第1図 調査位置図 (S=1/2,500)	1
第2図 高松平野と遺跡の位置	2
第3図 周辺の主要遺跡分布図 (S=1/5,000)	3
第4図 遺構配置図 (S=1/100)	6, 7
第5図 遺構配置図（弥生時代）(S=1/100)	8, 9
第6図 調査区北壁面(a-a')土層図 (S=1/20)	11
第7図 SK01 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/4)	12
第8図 SK01 出土遺物（石器）(S=1/2)	13
第9図 SK02 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/4)	13
第10図 SK03 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/4・1/2)	14
第11図 SK04 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/4)	15
第12図 SK05 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/4・1/2)	16
第13図 SK06 平・断面図 (S=1/40)	15
第14図 SK07 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/4)	17
第15図 SK08 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/4)	17
第16図 SK09 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/4)	18
第17図 SK10 平・断面図 (S=1/40)	18
第18図 SK11 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/4・1/2)	19
第19図 SK12 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/4・1/2)	20
第20図 SK13 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/4)	21
第21図 SK14 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/4・1/2)	22
第22図 SD01 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/4)	23
第23図 SD02 出土遺物 (S=1/4)	22
第24図 遺構配置図（中世）(S=1/100)	24, 25
第25図 SA01 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/3)	27
第26図 SA02 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/3)	29
第27図 SB01 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/3)	30
第28図 ピット出土遺物 (S=1/3)	32

第29図	SE01 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/3)	33
第30図	SK25～30 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/3)	35
第31図	SD03～05 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/3)	37
第32図	中世遺構配置図 (S=1/150)	46

## 挿 表 目 次

第1表	SA01、02、SB01 ピット観察表	38
第2表	ピット観察表	39
第3表	土器観察表	48
第4表	石器観察表	55

## 写 真 図 版 目 次

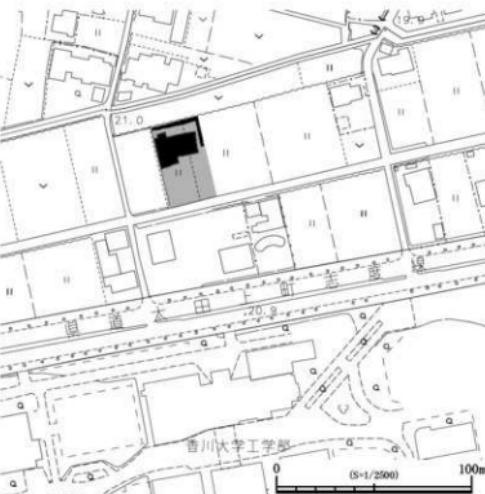
図版1	敲石に転用された磨製石斧 (S9)	SB01-SP099 半裁状況
図版2	SK01 遺物出土状況 (1, 10) 南から	SB01-SP106 半裁状況
	SK01 遺物出土状況 (1, 10)	SP030 遺物出土状況 (138)
	SK01 遺物出土状況 (1, 10) 西から	SP038 遺物出土状況 (147, 155)
図版3	SK01 遺物出土状況 (1, 10) 北から	SP038 断面
	SK02 断面	SE01 アゼ取り外し前
	SK03 断面	図版7 SE01 井戸側内転石除去前1
	SK04 断面	SE01 井戸側内転石除去後1
	SK05 断面	SE01 井戸側内転石除去後2
	SK06 断面	SE01 断面
	SK07 断面	図版8 SK25 完掘状況
	SK08 断面	SK26 半裁状況
図版4	SK09 断面	SK27 完掘状況
	SK10 断面	SK29 半裁状況
	SK12 断面	SK12, SK28, SK29 完掘状況
	SK13・14 断面	SD03, SP001 完掘状況
	SK13・14 完掘状況	SD03 断面
	SD01 断面	SD04, SP002 完掘状況
	SD01 完掘状況	図版9 弥生時代遺物写真1
	SH01 検出状況	弥生時代遺物写真2
図版5	基礎部分全景	図版10 中世遺物写真1
	SA01, SA02, SD05 周辺完掘状況	中世遺物写真2
	SB01 付近完掘状況	
	西侧擾乱付近完掘状況	
図版6	SB01-SP070 半裁状況	
	SB01-SP092 完掘状況	

# 第Ⅰ章 調査の経緯と経過

## 第1節 調査の経緯

調査対象地の内、林町字宮西6番8において土地所有者から高松市教育委員会(以下、市教委)に対し埋蔵文化財包蔵地の照会があった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「宮西・一角遺跡」に隣接することから、平成29年3月1日付で埋蔵文化財の試掘調査依頼が提出された。同年3月8日に試掘調査を実施した結果、遺構・遺物を確認したことから、周知の埋蔵文化財包蔵地「宮西・一角遺跡」の範囲に追加登録された。その後、林町字宮西6番51においても土地所有者から高松市教委に対し埋蔵文化財包蔵地の照会があり、同様に「宮西・一角遺跡」に隣接することから、9月26日付で埋蔵文化財の試掘調査依頼が提出された。10月20日に試掘調査を実施した結果、遺構・遺物を確認したことから、周知の埋蔵文化財包蔵地「宮西・一角遺跡」の範囲に追加登録された。

その後、当該地での事務所兼倉庫建設工事を計画した有限会社KAZU空調から平成30年1月9日付で文化財保護法第93条第1項に基づく発掘届出が提出され、市教委から香川県教育委員会へ進達したところ、1月17日付で工事着手前に発掘調査を実施するよう行政指導があった。これを受けて市教委は事業者と協議を行い、発掘調査を実施し記録保存を行うことで合意し、2月9日付で埋蔵文化財調査協定書を締結した。これに基づき市教委は発掘調査を実施した。



第1図 調査位置図 (S=1/2,500)

## 第2節 調査の経過

発掘調査は平成30年2月21日から開始し、3月3日に終了した。調査の主な工程は以下の通りである。

2月21日	擁壁部分の重機掘削、遺構検出、遺構掘削
2月22日	建物基礎部分の重機掘削、遺構検出
	擁壁部分の遺構掘削、完掘状況の写真撮影、調査終了
2月23日～3月2日	建物基礎部分の遺構掘削

3月 3日

完履状況の写真撮影、調査終了

整理作業は平成 30 年 4 月 1 日から開始し、同年 12 月 25 日に終了した。

## 第Ⅱ章 地理的・歴史的環境

### 第1節 地理的環境

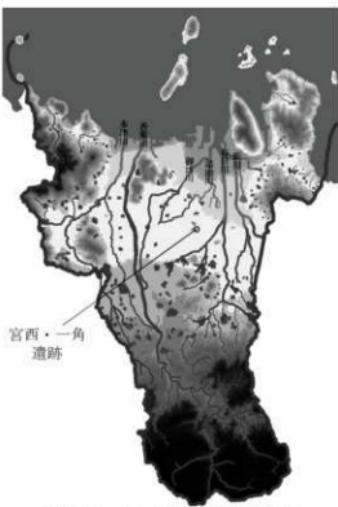
高松市は香川県の中央やや東寄りに位置し、市域の大部分は讃岐平野の一部を形成する高松平野が広がっている。高松平野は、讃岐山脈より流れ出た諸河川が運んだ土砂によって形成された沖積平野である。現在高松平野には、東から新川、春日川、詰田川、御坊川、石清尾山山塊を挟み香東川、本津川が北流しているが、中でも香東川が平野の形成に最も大きな影響を及ぼしている。現在の香東川は近世初頭に生駒家の家臣西嶋八兵衛によって改修されたものであり、かつては石清尾山塊の南麓から平野中央部を東北流する主流路が存在していた。この旧流路は、現在では水田地帯及び市街地の地下に埋没してしまっているが、空中写真等からは、林から木太地区にかけての分ヶ池、下池、長池、大池、旧ガラ池を結ぶ流路等数本の旧河道が知られており、発掘調査でもその痕跡が確認されている。なお、17世紀の庵川直前の流路は、御坊川として今でもその名残りを留めている。

高松平野を流れる諸河川は、南の讃岐山脈から平野への流入口で穏やかな傾斜を持つ扇状地形の沖積平野を形成し、農耕に適した地味豊かな土壤をもたらしたが、諸河川の中流域は伏流し、表層は渓れ川になることが多く、早くからため池を築造して水不足を解消してきた。これらのため池は、年間 1,000 ミリ前後と降水量の乏しい讃岐平野において農業用水確保のために不可欠なものである。

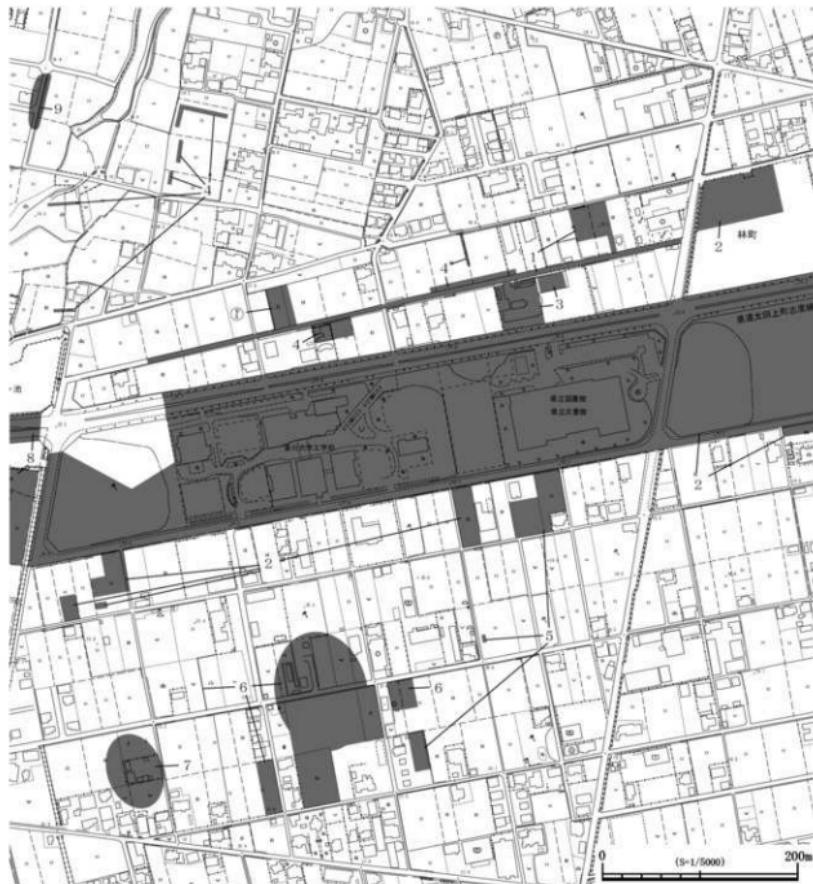
周辺では空港跡地遺跡などの調査成果により地理的環境が明らかにされている。藏本晋司氏が、周辺地形環境の復元及びそれに伴う遺跡の動態を整理している（藏本 1997）。

### 第2節 歴史的環境

高松平野では大規模開発事業の事前調査により、遺跡数が飛躍的に増加した。特に、今回の調査地周辺域においては、空港跡地整備事業に伴う発掘調査により得られた成果は大きい。ここでは、本遺跡周辺域の動態について述べる。なお、宮西・一角遺跡の過去の調査に関しては、市道林町 47 号線道路改良工事に伴い高松市教育委員会が 6 次にわたり発掘調査を行っており（高松市教委編 2000, 2001）、本調査を 7 次調査とする。また、近隣の多肥松林遺跡群の動態（多肥松林遺跡、日暮・松林遺跡、松林遺跡、多肥宮尻遺跡の一部）については高松市教委編 2018 にまとめているため、そちらを御参照願いたい。



第2図 高松平野と遺跡の位置



①：宮西・一角遺跡7次調査区 1：宮西・一角遺跡 2：空港跡地遺跡 3：一角遺跡 4：弘福寺領讃岐国田園調査地  
5：上林本村遺跡 6：拝師庵寺 7：畠遺跡 8：多肥宮尻遺跡 9：池の内遺跡

第3図 周辺的主要遺跡分布図 (S=1/5,000)

旧石器時代及び縄文時代の遺構は本遺跡周辺ではほとんどみられない。弥生時代に入ると、前期後半から遺構がみられるようになる。空港跡地遺跡の弥生時代の動態については、波多野篤氏がまとめしており（波多野 2014）、ここでは周辺遺跡も含めた概略を述べる。弥生時代前期後半から中期初頭にかけて多肥宮尻遺跡や空港跡地遺跡西側、宮西・一角遺跡などで堅穴住居跡や土坑が集中してみられ、自然流路にも当該期の土器が多量に含まれることから、流路に挟まれた微高地に集落が営まれたと想定される。弥生時代中期前半から中期末では本遺跡周辺ではほとんど遺構がみられなくなる。

弥生時代後期前半から集落が空港跡地遺跡全域（空港跡地遺跡、中林遺跡、拌師廃寺等）に広がり、古墳時代前期前半まで継続するようである。藏本氏による検討（藏本 1997）によると、当該地は複数の流路が北流し、それらによって形成された低地部と挟まれた微高地が入り組む起伏に富んだ地形であったようである。流路によって区切られた微高地に弥生時代後期の居住城が広がっている。また、古墳時代前期初頭の前方後円形や前方後方形の周溝墓を含む周溝墓群が検出されており、周辺の集落と関連するものと考えられる。

古墳時代では、前期後半から中期前半の遺構はみられず、中期後半から後期にかけて空港跡地遺跡で住居跡等が確認され、小規模な集落が点在する様相がみられる。8世紀後半からは、集落も増加し土地利用が活発化する。空港跡地遺跡東側では条里地割に沿う溝が広がり、微高地上に集落や灌漑網が展開する。空港跡地遺跡中央では、微高地頂部付近に總柱建物を含む掘立柱建物と灌漑網が展開する。生産域としては、空港跡地遺跡中央西側や宮西・一角遺跡、弘福寺領讃岐国山田郡田岡南地区にかけて南西から北東へ縱断する旧河道が古墳時代に埋没し、古代になると耕作域として利用されるようになる。そのため溝や水田の方位は旧河道に規制されている。

空港跡地遺跡の南側には拌師廃寺が所在する。拌師廃寺は山田郡拌師郷に所在したと伝わる古代寺院である。拌師廃寺推定地の発掘調査では、8世紀前半の掘立柱建物や区画溝が検出されているが性格は不明である。近世の遺構から10世紀後半に比定できる瓦が出土しているが、瓦の出土量は少なく、寺院に関連する遺構も認められなかったことから、調査地が寺院施設から離れている可能性が指摘されている。また、拌師廃寺の北西部の発掘調査では9世紀後半の木棺墓が検出されている。

本調査地周辺は日本最古の田団「弘福寺讃岐国山田郡田団」の南地区に比定されている。高松市教委では、昭和61年から平成10年にかけて調査を行っているが、古代・中世の遺構はあまり認められておらず、比定地の確定には至っていない。これは昭和19年の陸軍飛行場造成により削平又は攪乱を受けたためと考えられる。

中世に入ると、古代に計画的に整備された水路網や集落が廃絶する。12世紀前後から再開発され、古代に耕作域として利用された旧河道を除くほぼ全域で条里地割に沿う溝や小規模な建物が形成される。ただし、微高地頂部には水路網が敷かれない。佐藤竜馬氏により、空港跡地遺跡の中世の建物群は、①居館（大型建物と機能分化した建物配置をもつ）、②小型建物とより小規模な小型建物数棟、③数棟の小型建物群の大きさ3つに分類している（佐藤 2000）。13世紀に入ると、建物群の構成は空港跡地遺跡の東西で大きく異なるようになる。西側では、②及び③の建物群が展開する。一方東側では、②と③の建物群に加え、13世紀第1四半期に区画溝を伴う居館（①）が出現する。12世紀代からの再開発により13世紀前半には微高地の広範囲で建物群が展開し、特に空港跡地遺跡東側で確認された溝で囲繞する居館の出現は再開発における到達点の一つと評価される。今回調査した宮西・一角遺跡第7次調査区でも13世紀前半を中心とした居住城を確認している。

中世後半では、空港跡地遺跡東側では建物群が一つの区画施設内に集中し、空港跡地遺跡中央では今まで希薄だった微高地頂部で建物群と規模の大きい溝が認められる。また、宮西・一角遺跡では7次調査区周辺で16世紀の方形区画溝とピット群が検出されており、調査区の狭さから建物の復元には至っていないが屋敷地と評価されている。前時期よりも建物群が増加し、東側では一つの区画施設内に建物が集まる状況がみられ、西側では居館や建物群からなる散在的な集落形態がみられるようになる。

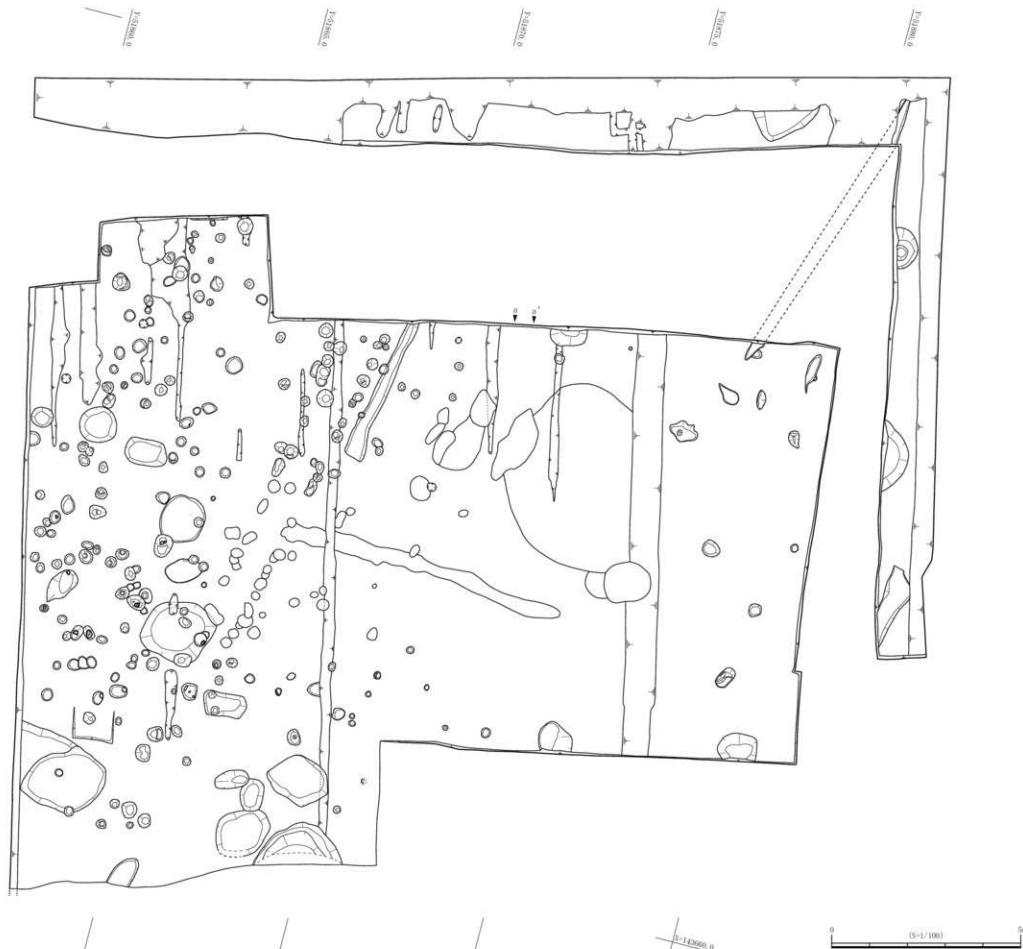
近世以降では、空港跡地遺跡西側で少数の条里方向の溝開削と池台池（溜池）の築造が行われ、発掘調査では池台池の桶管と堤防が検出されている。空港跡地遺跡東側では条里に沿う溝が広範囲に敷

かれ、灌漑単位としては西側が溜池を用水源としたもの、東側は広く施工された条里地割に沿う溝によるものと想定されている。

空港跡地遺跡西側の条里地割に沿う溝や建物跡は東側に比べ非常に希薄なため、田畠が広がっていたと考えられる。東側は集落が展開し土器が豊富に出土したため、17～18世紀の高松平野の土器編年の指標となっている。また、周辺には吉国寺と岩田神社が所在したことが知られる。

## 参照文献

- 藏本晋司 1997『地形環境の復元』『空港跡地遺跡II』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・香川県土地開発公社
- 佐藤竜馬 2000『中世林地域の村落景観』『空港跡地遺跡IV』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・香川県土地開発公社
- 波多野篤 2014『弥生時代前期から後期にかけての調査地周辺の調査成果』『上林本村遺跡』高松市埋蔵文化財調査報告第156集
- 渡邊誠 2014『弥生時代中期から後期における高松平野の集落動態』『東アジア古文化論叢』1 高倉洋彰先生退職記念論集刊行会
- 香川県教育委員会編 1996『空港跡地遺跡I』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・香川県土地開発公社
- 香川県教育委員会編 1997『空港跡地遺跡II』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・香川県土地開発公社
- 香川県教育委員会編 1997『空港跡地遺跡(J地区)』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・香川県土地開発公社
- 香川県教育委員会編 1998『空港跡地遺跡III』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・香川県土地開発公社
- 香川県教育委員会編 2000『空港跡地遺跡IV』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・香川県土地開発公社
- 香川県教育委員会編 2002『空港跡地遺跡V』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・香川県土地開発公社
- 香川県教育委員会編 2003『空港跡地遺跡VI』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・香川県土地開発公社
- 香川県教育委員会編 2003『空港跡地遺跡(K地区)』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・香川県土地開発公社
- 香川県教育委員会編 2004『空港跡地遺跡VII』香川県教育委員会・香川県土地開発公社
- 香川県教育委員会編 2004『空港跡地遺跡VIII』香川県教育委員会・香川県土地開発公社
- 香川県教育委員会編 2007『空港跡地遺跡IX』香川県教育委員会
- 高松市教育委員会 1992『讃岐国弘福寺領の調査 弘福寺領讃岐国山田郡田図調査報告書』高松市埋蔵文化財調査報告第19集
- 高松市教育委員会編 1995『空港跡地遺跡(亀の町地区I)』高松市埋蔵文化財調査報告第25集
- 高松市教育委員会編 1995『空港跡地遺跡(亀の町地区II)』高松市埋蔵文化財調査報告第28集
- 高松市教育委員会 1999『讃岐国弘福寺領の調査II 第2次弘福寺領讃岐国山田郡田図調査報告書』弘福寺領讃岐国山



第4図 遺構配置図 (S=1/100)



第5図 遺構配置図（弥生時代）(S=1/100)

田郡田園調査委員会・高松市埋蔵文化財調査報告第 37 集  
高松市教育委員会編 2000 『一角遺跡』高松市埋蔵文化財調査報告第 44 集  
高松市教育委員会編 2000 『宮西・一角遺跡』高松市埋蔵文化財調査報告第 48 集  
高松市教育委員会編 2001 『宮西・一角遺跡』高松市埋蔵文化財調査報告第 55 集  
高松市教育委員会編 2010 『拌師廐寺』高松市埋蔵文化財調査報告第 129 集  
高松市教育委員会編 2011 『中林遺跡』高松市埋蔵文化財調査報告第 133 集  
高松市教育委員会編 2011 『空港跡地遺跡』高松市埋蔵文化財調査報告第 134 集  
高松市教育委員会編 2012 『空港跡地遺跡（本村地区）』高松市埋蔵文化財調査報告第 136 集  
高松市教育委員会編 2013 『空港跡地遺跡（上青木地区）』高松市埋蔵文化財調査報告第 149 集  
高松市教育委員会編 2014 『上林本村遺跡』高松市埋蔵文化財調査報告第 156 集  
高松市教育委員会編 2016 『空港跡地遺跡（亀の町地区 1）』高松市埋蔵文化財調査報告第 171 集  
高松市教育委員会編 2017 『中林遺跡』高松市埋蔵文化財調査報告第 186 集  
高松市教育委員会編 2018 『日暮・松林遺跡（第 11 次調査）』高松市埋蔵文化財調査報告第 194 集

## 第III章 調査の成果

### 第1節 調査方法

調査は、建物基礎部分及び擁壁部分を敷設する範囲を対象とした。事業に伴う掘削では当初布掘りを行なう予定だったが、事業者の協力により、遺構の分布を把握するため面的に調査区を設定し、重機掘削した。ただし調査期間及び調査費用の都合上、現地保存される箇所は遺構掘削を行なわず遺構検出のみに留めた。発掘調査は表土から遺構面までを重機により掘削、その後人力により遺構面を精査し遺構掘削を行なった。

記録に際しては基準点を基に1/20縮尺で平面図及び断面図を作図した。写真撮影は35mmフィルムカメラを用い、モノクロ・カラーリバーサルフィルムで記録し、補助的にデジタルカメラも用いた。

### 第2節 基本層序

基本層序は大きく2つに分かれる。I層は耕作土・甘土で、約0.2m堆積している（第6図1,2層）。II層はにぶい黄色シルト層（第6図3層）で、地山である。遺構検出は、II層上面で行った。

### 第3節 遺構・遺物 一弥生時代一

#### （1）土坑

##### S K 01（第7、8図）

北側擁壁部分で検出した。平面形状は不整形の円形と考えられ、遺構の北側は搅乱によって壊されている。長軸172cm、短軸80cm以上、深さ21cmの土坑である。断面は台形状で、埋土はにぶい黄褐色シルトである。土層は単層で、底面からは完形に近い小型の鉢形土器と甕形土器が、最上面からは多量の拳大程度の川原石が弥生土器片と共に出土した。埋没時期はほぼ同時期であると考えられる。遺構からは、ビニール袋2袋程度の弥生土器片と石器、サヌカイトの剥片が出土した。

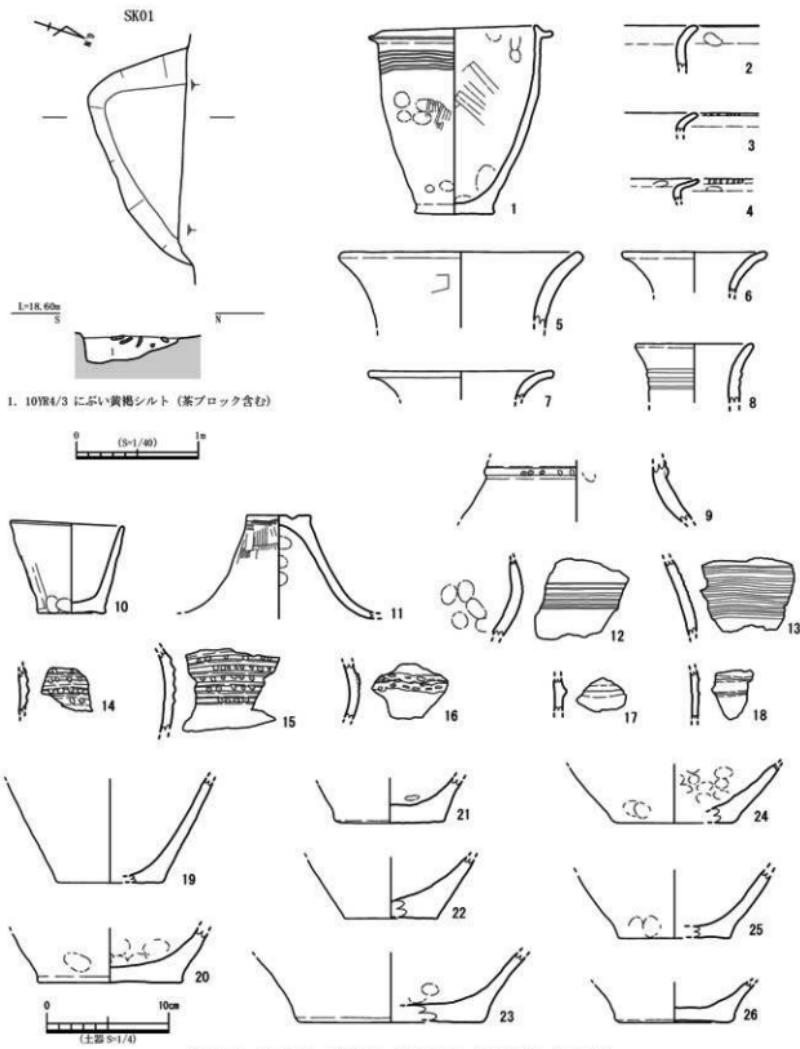
**出土遺物** 1～4は甕である。1は底面に近い場所から出土した完形に近い土器で、口縁部は先端からやや下がった場所に突帯を貼付し逆L字形にしたものである。6条のヘラ描沈線を施す。2～4は如意形の口縁部である。3、4は端部に刻目を施す。5～9は甕である。5～8は口縁部で、9は頸部である。9は突帯を1条貼付し、刻目を施す。10は小型の鉢である。1と共にほぼ完形に近い状態で底面に近い場所から出土した。外表面ともにナデ、指押さえを施す。11は蓋である。12～18は胴部片である。12、13は6～10条のヘラ描沈線を施し、14～16は2～4条の刻目突帯を貼付し、17、18は1～2条の突帯を貼付する。19～26は底部片である。S1は磨製石庖丁片で、石材は結晶片岩である。S2は磨石で、石材は砂岩である。S3は打製石礫片で、石材はサヌカイトである。

**所属時期** 出土遺物から、弥生時代前期末である。

##### S K 02（第9図）

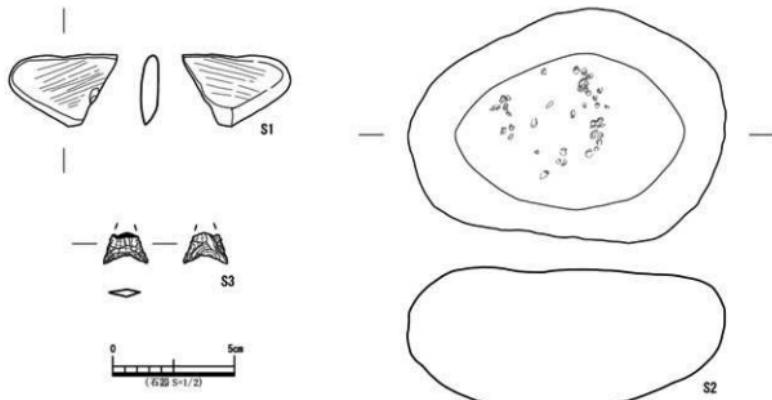


第6図 調査区北壁面（a-a'）  
土層図（S=1/20）



第7図 SK01 平・断面図 ( $S=1/40$ ) 出土遺物 ( $S=1/4$ )

東側擁壁部分北側で検出した。平面形状は円形と考えられ、東側のみ検出した。長軸 110cm、短軸 54cm 以上、深さ 48cm の土坑である。断面は円形で、埋土は褐色シルトである。土層は 2 層に分か



第8図 SK01出土遺物（石器）(S=1/2)

れるが、出土遺物から埋没時期はほとんど同時期であると考えられる。遺構からは、ビニール袋1袋程度の弥生土器片が出土した。

**出土遺物** 27、28は胴部片である。28は3条の突帯を貼付した後、垂直方向に突帯を1条貼付する。西部瀬戸内の影響と考えられる。

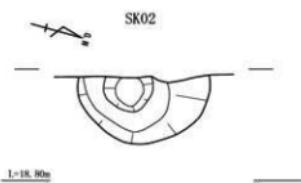
**所属時期** 出土遺物から、弥生時代前期末である。

### S K 03 (第10図)

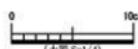
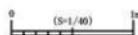
東側擁壁部分のSK02の南で検出した。平面形状は円形と考えられ、東側のみ検出した。長軸192cm、短軸60cm以上、深さ54cmの土坑である。断面は台形状で、埋土は褐灰色シルトである。土層は3層に分かれる。遺構からは、ビニール袋3袋程度の弥生土器片と石器、サヌカイトの剥片が出土した。

**出土遺物** 29～33は甌の口縁部である。全て逆L字形だが形状や幅は様々である。ヘラ描沈線で、3～9条以上施す。30は口縁端部に刻目がある。34～36は甌の口縁部である。35は端部に刻目が施され、36は内面に溝巻き状の突帯が貼付すると考えられる。37、38は胴部片である。37は9条以上のヘラ描沈線が、38は5条以上のヘラ描沈線と刻目突帯1条を施す。39～43は底部片である。43は底部端が張り出し、蓋の可能性もある。S4は打製石鐵片で、石材はサヌカイトである。

**所属時期** 出土遺物から、弥生時代前期末である。

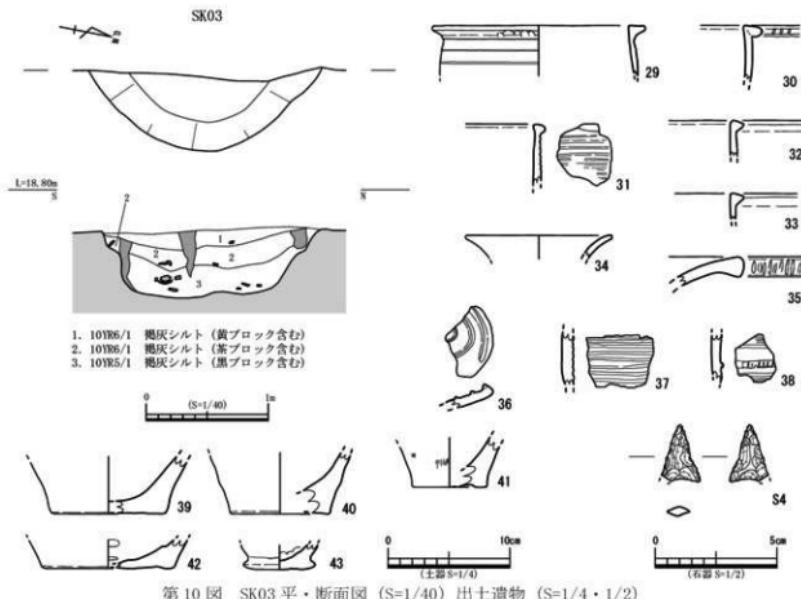


1. 10YR6/1 暗灰シルト (黄ブロック含む)
2. 10YR6/1 暗灰シルト (茶ブロック含む)



第9図 SK02平・断面図 (S=1/40)

**出土遺物 (S=1/4)**



第10図 SK03 平・断面図 ( $S=1/40$ ) 出土遺物 ( $S=1/4 \cdot 1/2$ )

#### S K 04 (第 11 図)

基礎部分の南東壁際で検出した。平面形状は円形と考えられ、北側のみ検出した。長軸 104cm、短軸 64cm 以上、深さ 30cm の土坑である。断面は半円状で、埋土は褐灰色シルトである。土層は 2 層に分かれる。遺構からは、ビニール袋 2 袋程度の弥生土器片とサヌカイトの剥片が出土した。

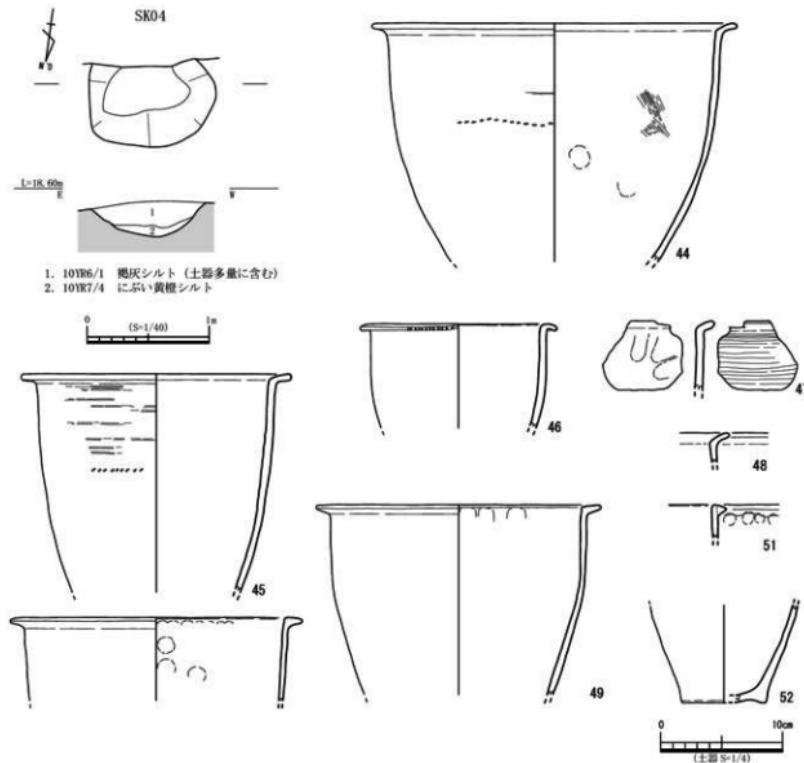
**出土遺物** 44 ~ 52 は甕である。44 ~ 48 は如意形口縁の甕である。口縁部は内側に明瞭な稜線が出る程度に強く折り曲げる。44、45、47 は櫛描直線文を施し、44、45 は櫛描直線文の下に楕円形の刺突文を施す。46 は口縁端部に刻目がある。49 ~ 51 は逆 L 字形口縁の甕である。52 は底部片である。

**所属時期** 出土遺物から、弥生時代中期初頭である。

#### S K 05 (第 12 図)

基礎部分の南東壁際で検出した。平面形状は円形と考えられ、北側のみ検出した。長軸 88cm、短軸 76cm 以上、深さ 28cm の土坑である。断面は台形状で、埋土は褐灰色シルトである。土層は 2 層に分かれる。遺構からは、ビニール袋 1 袋程度の弥生土器片と石器、サヌカイトの剥片が出土した。

**出土遺物** 53 ~ 58 は甕の口縁部である。53、54 は如意形の口縁である。55 ~ 58 は逆 L 字形の口縁である。55 ~ 57 は、外側に向かって高くなる断面が三角形状の口縁部で、鉢の可能性もある。59 は壺の口縁部である。60、61 は底部片である。S5 は、扁平片刃石斧である。上下両面とも剥離がみられる。石材は結晶片岩である。S6 は磨石で、石材は砂岩である。S7 はスクレイバーで、折れがみられる。石材はサヌカイトである。S8 は打製石器片で、石材はサヌカイトである。



第11図 SK04 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/4)

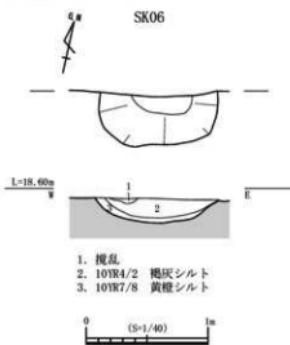
所属時期 出土遺物から、弥生時代前期末である。

#### SK 06 (第13図)

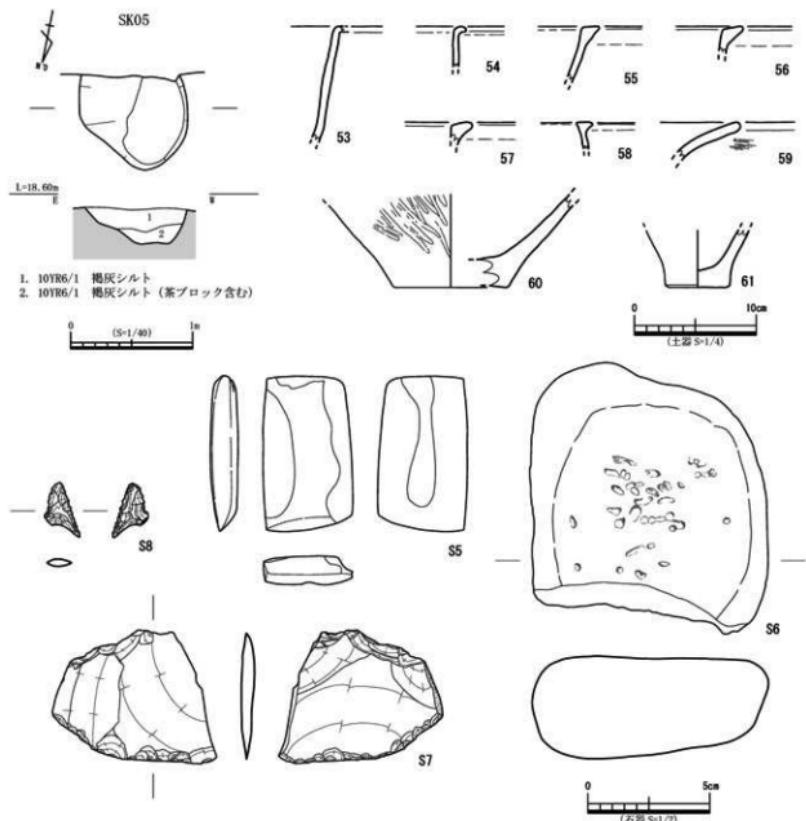
基礎部分の北側壁際で検出した。平面形状は円形と考えられ、南側のみ検出した。長軸98cm、短軸40cm以上、深さ20cmの土坑である。断面は半円状で、埋土は褐色シルトである。土層は2層に分かれる。遺構からは、ビニール袋1袋程度の弥生土器片とサヌカイトの剥片が出土したが、図化できる遺物はなかった。

所属時期 出土遺物から、弥生時代前期末である。

#### SK 07 (第14図)



第13図 SK06 平・断面図 (S=1/40)

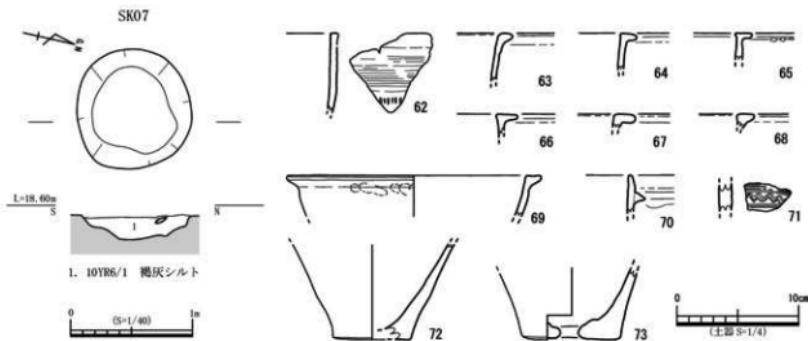


第12図 SK05 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/4・1/2)

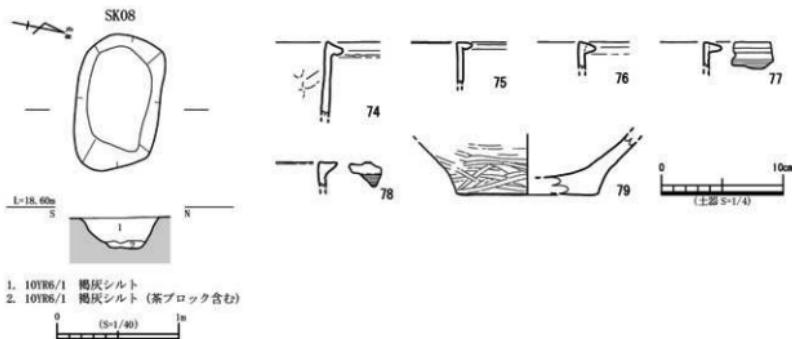
基礎部分西側で検出した。平面形状は円形で、長軸98cm、短軸94cm、深さ19cmの土坑である。断面は台形状で、埋土は褐色シルトの単層である。遺構からは、ビニール袋2袋程度の弥生土器片とサスカイトの剥片が出土した。

**出土遺物** 62～68は甕の口縁部である。逆L字形を呈する。62は貼付した粘土が剥離し、接合痕がみられる。また、櫛描直線文の下には楕円形の刺突文を施す。69は逆L字形の口縁をもつ鉢だが、外側に向かって口縁が高くなる甕の可能性もある。70は口縁部の先端からやや下がった場所に幅1cmの突帯を貼付した口縁である。器種は甕と考えられる。71は胴部片である。ヘラ描沈線で数条の沈線間に波状文を描く。72、73は底部片である。73は底に穿孔がある。

**所属時期** 出土遺物から、弥生時代中期初頭である。



第14図 SK07 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/4)



第15図 SK08 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/4)

### S K 08 (第15図)

基礎部分西側、SK07の東で検出した。平面形状は長方形で、長軸112cm、短軸70cm、深さ24cmの土坑である。断面は台形状で、埋土は黄灰色シルトである。土層は2層に分かれる。遺構からは、ビニール袋1袋程度の弥生土器片とサヌカイトの剥片が出土した。

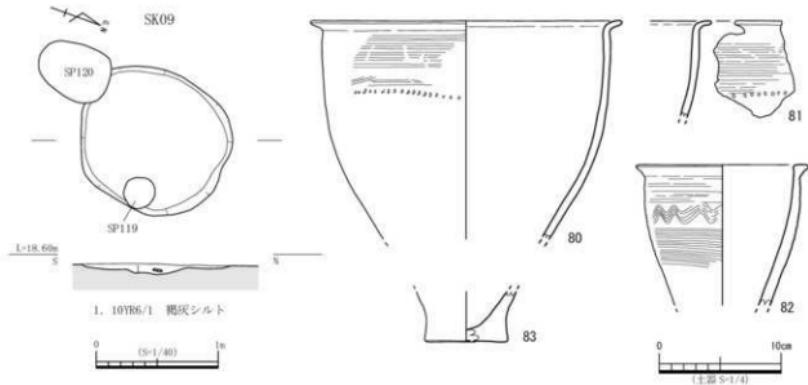
**出土遺物** 74～78は甕の口縁部である。逆L字形を呈する。77、78はヘラ描沈線を2～4条以上施す。79は底部片である。外間にミガキを施す。

**所属時期** 出土遺物から、弥生時代前半である。

### S K 09 (第16図)

基礎部分西側、SK08の南で検出した。平面形状は円形で、長軸124cm、短軸120cm、深さ24cmの土坑である。SP119とSP120に切られる。断面は半円状で、埋土は黄灰色シルトの単層である。遺構からは、ビニール袋2袋程度の弥生土器片とサヌカイトの剥片が出土した。

**出土遺物** 80～83は甕である。80、81は如意形口縁の甕である。櫛描直線文の下に楕円形の刺突文



第16図 SK09 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/4)

を施す。82は逆L字形口縁の甕である。櫛描直線文の中に波状文を施す。83は底部片である。

所属時期 出土遺物から、弥生時代中期初頭である。

#### S K 10 (第17図)

基礎部分西側、SK09の南で検出した。平面形状は長方形で、長軸112cm、短軸60cm、深さ12cmの土坑である。SP173とSP174に切られる。断面は台形状で、埋土は3層に分かれる。下層は褐色シルトで、上層がオリーブ黒色シルトである。遺物は出土しなかった。

所属時期 埋土の色調及び周辺の遺構から、弥生時代前期末～中期初頭と考えられる。

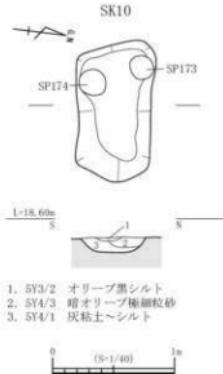
#### S K 11 (第18図)

基礎部分南西側、SK10の南東で検出した。平面形状は楕円形で、長軸168cm、短軸136cm、深さ34cmの土坑である。断面は台形状で、埋土は褐色シルトである。土層は3層に分かれる。遺構からは、ビニール袋2袋程度の弥生土器片とサヌカイトの剥片が出土した。

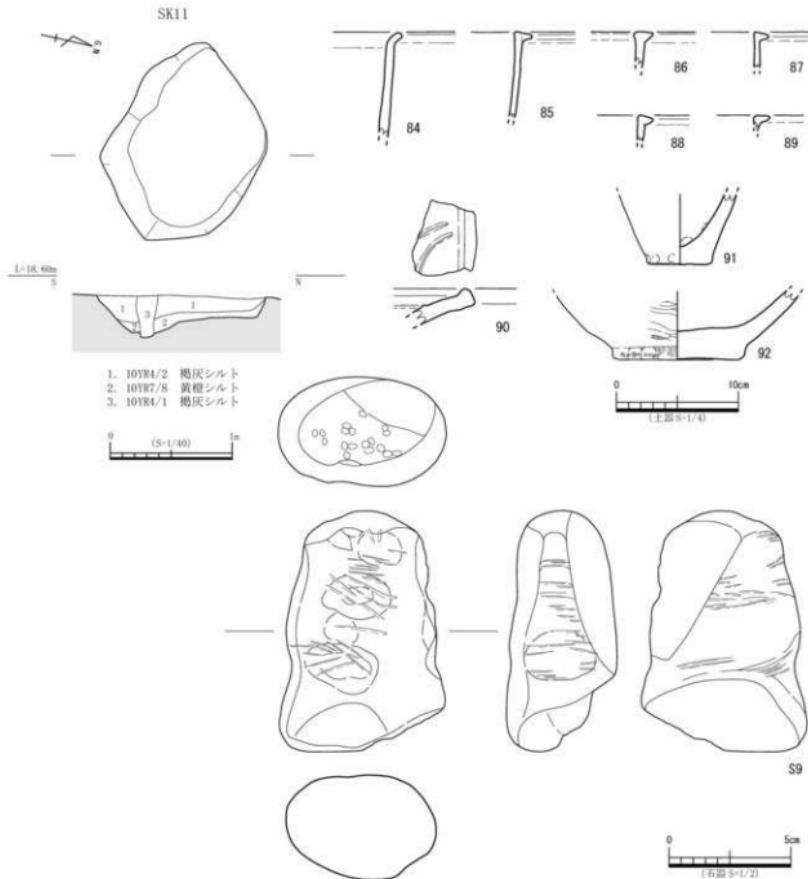
出土遺物 84～89は甕である。84は如意形口縁の甕である。85～89は逆L字形口縁の甕である。90は壺の口縁部である。端部が内側にわずかに張り出し、内面に突帯が貼付している。91、92は底部片である。S9は、磨製石斧である。磨製石斧として使用中に折れて、敲石として転用されている。全ての面において敲石として使用された痕跡があり、磨製石斧として使用できなくなった後も長く敲石として使用されたことが分かる。石材は結晶片岩である。

所属時期 出土遺物から、弥生時代前期末である。

#### S K 12 (第19図)



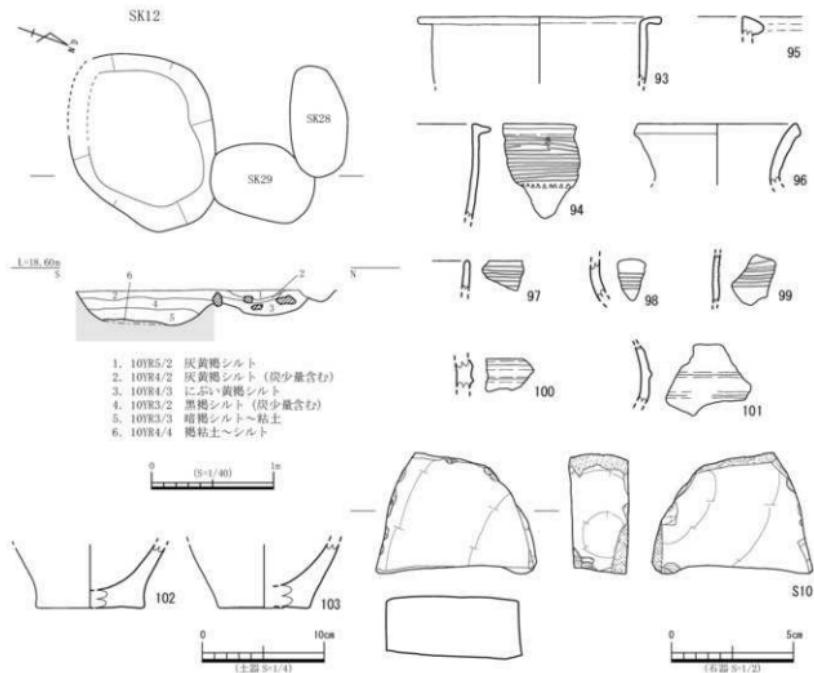
第17図 SK10 平・断面図  
(S=1/40)



第18図 SK11 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/4・1/2)

基礎部分南西側、SK11の南西で検出した。平面形状は楕円形で、長軸146cm、短軸120cm、深さ32cmの土坑である。SK29に切られる。断面は台形状で、埋土は褐灰色シルトである。土層は3層に分かれる。遺構からは、ビニール袋3袋程度の弥生土器片とサヌカイトの剥片、結晶片岩の磨製石器片が出土した。

**出土遺物** 93～95は甌である。93は如意形口縁の甌である。94、95は逆L字形口縁の甌で、94はヘラ描沈線12条の下に三角形の刺突文を施す。96は甌の口縁部である。97は短頭甌の口縁部と考えられ、口縁端部直下にヘラ描沈線6条以上を施す。98は甌の頸部でヘラ描沈線を5条施す。99～101は胴部片である。99はヘラ描沈線7条を施し、100、101は突帯を2条貼付する。102、103は底



第19図 SK12 平・断面図 ( $S=1/40$ ) 出土遺物 ( $S=1/4 \cdot 1/2$ )

部片である。S10は、サヌカイトの石核である。

所属時期 出土遺物から、弥生時代前期末～中期初頭である。

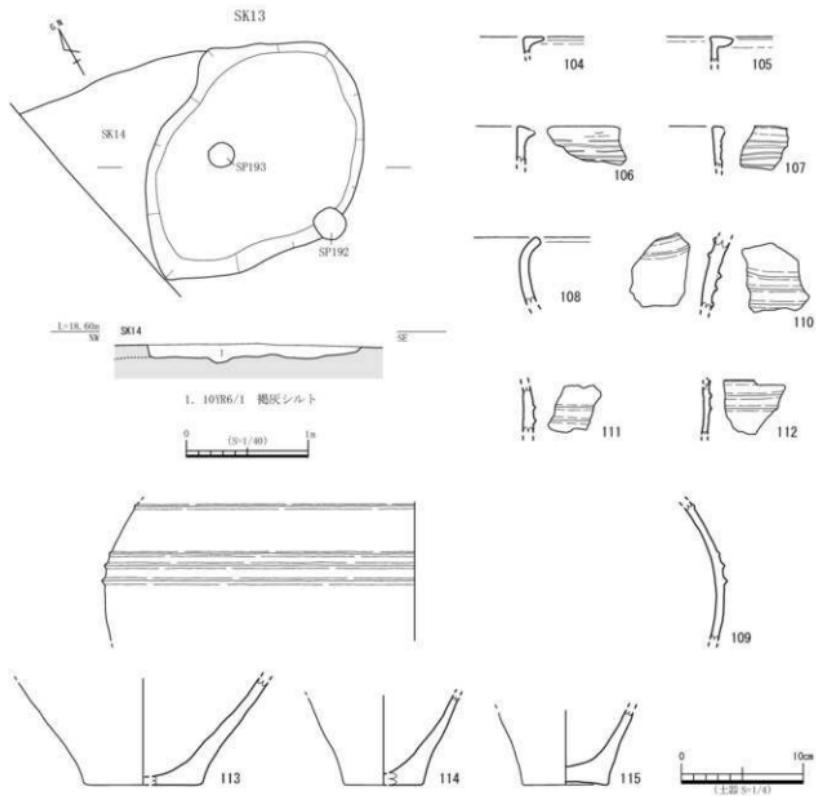
#### SK13 (第20図)

基礎部分南西側、SK12の西で検出した。平面形状は橢円形で、長軸230cm、短軸158cm、深さ10～14cmの土坑である。SK14を切り、SP192とSP193に切られる。断面は台形状で、埋土は褐色シルトの単層である。遺構からは、ビニール袋3袋程度の弥生土器片が出土した。

**出土遺物** 104～107は逆し字形の口縁部の壺である。106、107はヘラ描沈線を5条以上施す。108は壺の口縁部である。109は壺の胴部である。胴部が張った形態をしており、3条の突帯が胴部最大径に貼付する。胴部片の端部にも突帯があるため胴部上半にも数条の突帯が存在すると考えられる。110は壺の頸部である。外面には突帯を3条以上、内面に2条以上の突帯を貼付する。111、112は胴部片である。2～3条以上の突帯を貼付する。113～115は底部片である。

所属時期 出土遺物から、弥生時代前期末である。

#### SK14 (第21図)



第20図 SK13 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/4)

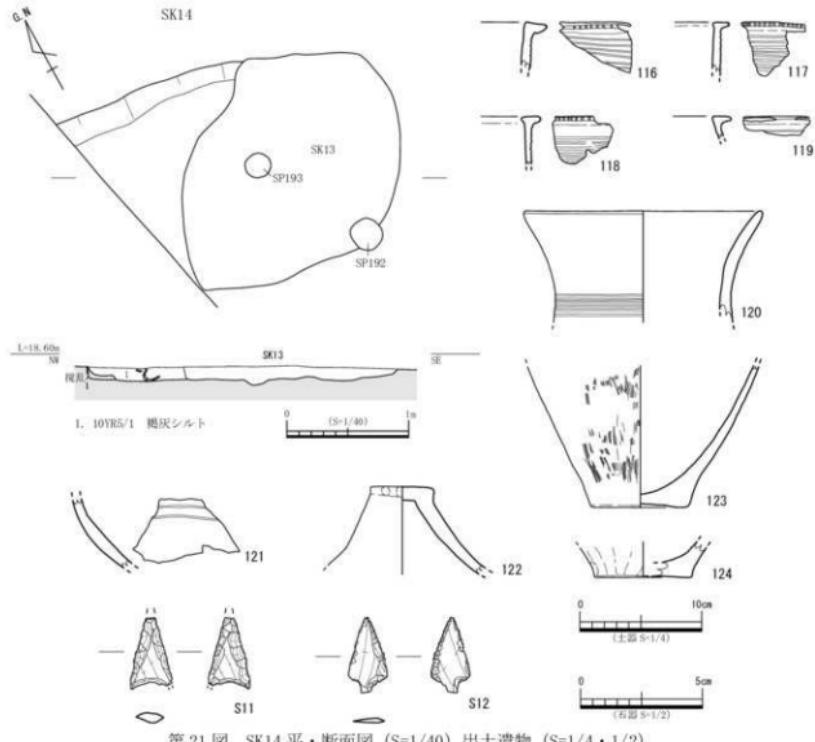
基礎部分南西壁際で検出した。西側のみ検出したが、SK13に切られているため平面形状は不明で、深さ10cmの土坑である。SK13に切られる。断面は台形状で、埋土は暗灰色シルトの単層である。遺構からは、ビニール袋2袋程度の弥生土器片とサヌカイトの剥片が出土した。

**出土遺物** 116～119は逆L字形の口縁部の壺である。116～118は口縁端部に刻目を付け、4～8条以上のヘラ描沈線を施す。120は壺の口縁部～頸部である。頸部にはヘラ描沈線を6条以上施す。121は壺の頸部で、ヘラ描沈線を2条以上施す。122は蓋である。123、124は底部片である。S11、S12は打製石器で、石材はサヌカイトである。S12は有茎である。

**所属時期** 出土遺物から、弥生時代前半である。

#### S K 15 ~ 24

基礎部分中央で検出した。遺構掘削は行っておらず平面検出のみに留めた。埋土は暗灰色シルト又



第21図 SK14 平・断面図 ( $S=1/40$ ) 出土遺物 ( $S=1/4 \cdot 1/2$ )

は灰白色シルトである。時期は周辺の遺構と同じ弥生時代前期末～中期初頭と考えられる。

## (2) 溝

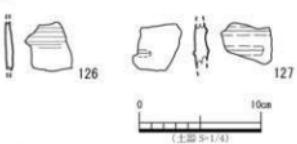
### SD 01 (第22図)

東側擁壁部分のSK03の南で検出した。幅50～70cm、深さ16cmの溝である。底面から10cmの高さまでは地山に黒ブロックを含む埋土が堆積しており、その上層は褐灰色シルトである。遺構からは、ビニール袋1袋程度の弥生土器片とサヌカイトの剥片 SD02 が出土した。

**出土遺物** 125は如意形口縁の甕の頭部である。ヘラ描沈線を5条以上施す。

**所属時期** 出土遺物から、弥生時代前期末である。

### SD 02 (第23図)



第23図 SD02 出土遺物 ( $S=1/4$ )

基礎部分中央で検出した。遺構掘削は行っておらず平面検出のみに留めた。幅 40 ~ 50cm で埋土は灰白色シルトである。  
**出土遺物** 126、127 は胸部片である。126 は櫛描直線文を 6 条以上施す。127 は突帯を外面に 2 条以上、内面に 1 条以上貼付する。

**所属時期** 出土遺物から、弥生時代前期末である。

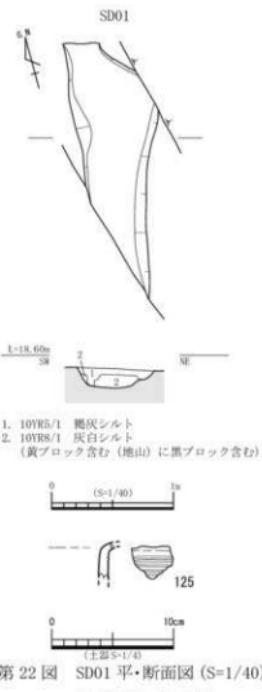
### (3) 堪穴建物跡

#### SH 01

基礎部分中央で検出した。遺構掘削は行っておらず平面検出のみに留めた。平面形状は長軸約 5m の楕円形である。短軸は擾乱に切られているため不明だが、およそ 4m 程度と考えられる。SK24 を切り、SK15、23 に切られる。時期は周辺の状況と切り合い関係から、弥生時代前期末と考えられる。

### (4)まとめ

弥生時代前期末～中期初頭の土坑 24 基（内、10 基は未掘削）と溝 2 条（内、1 条は未掘削）、堪穴建物跡 1 棟（未掘削）を検出した。これらの遺構は、空港跡地遺跡西部や多肥宮尻遺跡、宮西・一角遺跡で検出された堪穴建物跡や土坑と一連の集落のものの可能性が高く、集落は本調査区の北側及び西側に広がるものと想定される。



第 22 図 SD01 平・断面図 (S=1/40)  
出土遺物 (S=1/4)



第24図 遺構配置図(中世)(S=1/100)

## 第4節 遺構・遺物 一中世一

### (1) 柱穴 (ピット)

今回の調査では、基礎部分西側を中心に中世のピットを多数検出した。これらのピットの多くは掘立柱建物を構成する柱穴であると考えられる。高松平野の条里地割の方位はN-10°-E前後であることが知られており、空港跡地遺跡の発掘調査成果では中世前半の建物の方位がN-8°～13°-Eであり条里地割に沿つたものであることが判明している。そのため、建物の復元についてはこの方位で検討した。また、建物の柱間は空港跡地遺跡の発掘調査成果では1.5～2.5mであったため、柱間の間隔についてもこの範囲で検討した。

#### S A 01 (第25図) (第1表)

調査区基礎部分の中央西側で南北方向 (N-12°-E) の柵列である。主軸方位は周辺の条里地割と一致する。柱穴は20基(未掘削7基)で、全長7.83mを測る。柱穴の大部分はSA02と関連性のある配置・規模となっている。柱間距離は一定しておらず、柱穴のレベルも一定しない。重複しているピットが複数あるため、複数回建て替えを行ったと考えられる。

SP030からは完形の土師質土器小皿(138)が出土している。柱穴のほぼ中央で底部を上に向かた状態で出土した。地鎮遺構と考えられる。

**出土遺物** 128～138は土師質土器小皿である。128、129は磨滅のため底部調整は不明瞭である。130～134は底部調整は回転糸切りである。130～133は器高が低く体部断面は三角形である。134は他に比べて体部が長く内湾気味に延びる。135～138は底部調整は回転ヘラ切りである。135は体部に回転ナデによる細かい凹凸がある。136～138は口径8.6～8.8cm、器高1.4～1.5cm程度であり、器壁が薄く斜め上方へ直線的に延びる体部をもつ。136のみ須恵器に近い焼成であるが、形態から土師質土器小皿と考えられる。底部調整は右方向の回転ヘラ切りのち板状压痕である。

139、140は十瓶産須恵器楕である。139の内面調整は摩滅が激しく単位不明瞭であるが、縦方向のナデを施す。外面は口縁部が黒色化する。佐藤編年A II -7、8型式と考えられる。140の内面調整は斜方向にハケを施した後、斜方向にミガキを施し、最後に口縁部に強い回転ナデをする。外面調整は残存部分が全面黒色化し、横方向にミガキを施す。佐藤編年A II -6型式である。141、142は土師質土器鍋である。141は口縁部まで縦方向のハケ目を施したのち、口縁部を折り曲げている。142の内面調整は体部は横方向のハケ目で、口縁部はヨコナデである。片桐編年の土師質土器鍋AIである。

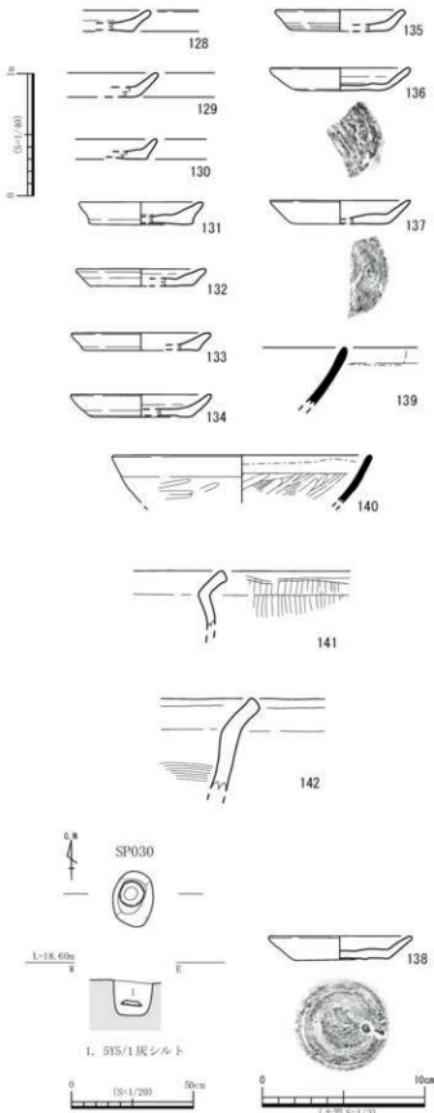
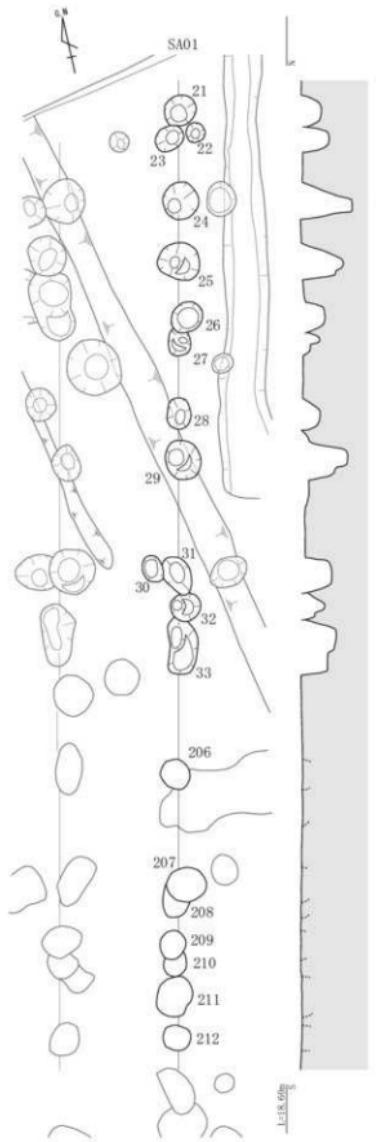
**所属時期** 底部調整が回転ヘラ切りの小皿と回転糸切りの小皿が多数出土し、佐藤編年A II -7、8型式の須恵器楕が出土していることから、13世紀初頭から半ばと考えられる。

#### S A 02 (第26図) (第1表)

SA01の西側で、同じく南北方向 (N-12°-E) の柵列である。柱穴は18基(未掘削8基)で全長7.2mを測るが、SA01同様に南北へ伸びる可能性が高い。単体で観察した場合SA01と同様に柱間距離やレベルが一定していないが、SA01とピットの位置や底面レベルが対応する。SA01との柱間距離は約90cmで平行し、セット関係にあったと考えられる。その性格については第IV章で後述する。

SP038からは多量の遺物が出土した。直径約33cmで深度約40cmを測り南側でSP039を切る。遺物はほぼ完形の土師質土器杯、小皿の他に須恵器楕や和泉産瓦器楕が出土した。

**出土遺物** 143～153は土師質土器小皿である。143、144は磨滅のため底部調整は不明瞭である。



第25図 SA01 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/3)

144は外面調整で体部に一部ハケ目が確認できる。145～148は底部調整は回転糸切りである。いずれも口径は7.8～8.2cmと8cm前後に収まる。145は器高が低く体部断面は三角形である。土師質土器杯（155）と胎土が類似しており、褐色で器壁が厚い。佐藤編年小皿C II型式と考えられる。146は器壁が薄く、口縁部が外反気味に延びる。147は体部が長く内湾気味に延びる。148は口縁部と体部の回転ナデの境が明瞭で、胎土が褐色を呈しやや器壁が厚い。149～153は底部調整は回転ヘラ切りである。149のみ体部が短く器高が低い。150～152は体部の器壁がやや薄く、直線的に延びる。いずれも口径約8.5cm、器高1.3cm前後である。151は体部内面に強い回転ナデを施すため口縁部がやや外反する。底部調整の回転方向は右回転である。152は底部調整の回転方向は不明である。153は口縁部と体部の境が明瞭となっており、底部調整の回転方向は右回転である。胎土は白く精良である。154、155は土師質土器杯である。154は底部である。底部調整は右方向の回転ヘラ切りのち板状圧痕である。155は体部は緩やかに内湾し、回転ナデによる明瞭な凹凸が確認できる。体部調整の回転ナデは口縁部のち部に施す「口縁部ナデ→体部ナデ」手法である。底部調整は回転糸切りであり、回転方向は右回転である。他の土師質土器と比べ砂礫を多く含み、器壁が厚い。佐藤編年の杯E III-3である。156は土師質土器碗である。外面調整は体部指押さえ後口縁部を2回横ナデを施す。胎土が白く精良であり、吉備系土師質土器碗の可能性がある。

157～159は須恵器碗である。体部は直線的に延び、口縁部の回転ナデでわずかに屈曲する。口縁部内外は黒色化している。157はSP080出土の破片と接合した。158は体部が直線的で器高が低いと想定できるため佐藤編年椀A II-7～9型式と考えられる。159は底部である。160～162は和泉産瓦器碗である。体部指押さえ後口縁部に横ナデを施す。160は口径が14.5cmを超えず、器高が低いことから尾上編年III-3～IV-1期である。161の外側には口縁部直下に指押さえ痕が並び、逆扇状の指ナデを施す。尾上編年III-2期である。162は底部である。見込みの暗文は並行もしくは斜交する。163は土師質土器鍋である。体部はくの字に屈曲しており、内面調整は口縁部に強いヨコナデを施す。片桐編年の土師質土器鍋A1である。

**所属時期** 底部調整が回転ヘラ切りと回転糸切りの小皿や、胎土や器形が特徴的な杯E III-3型式と尾上編年III-2、3期の和泉産瓦器碗が出土しているため、13世紀初頭から13世紀半ばと考えられる。

#### S B 01 (第27図) (第1表)

調査区基礎部分の北西部分に位置する2間×1間(4.32m×2.27m)の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-11.5°-Eであり、条里地割の方位と一致する。柱間は桁行1.8～2.25m、梁間1.8～2.06mを測り、付近には径や深度が同規模のビットが集中する。

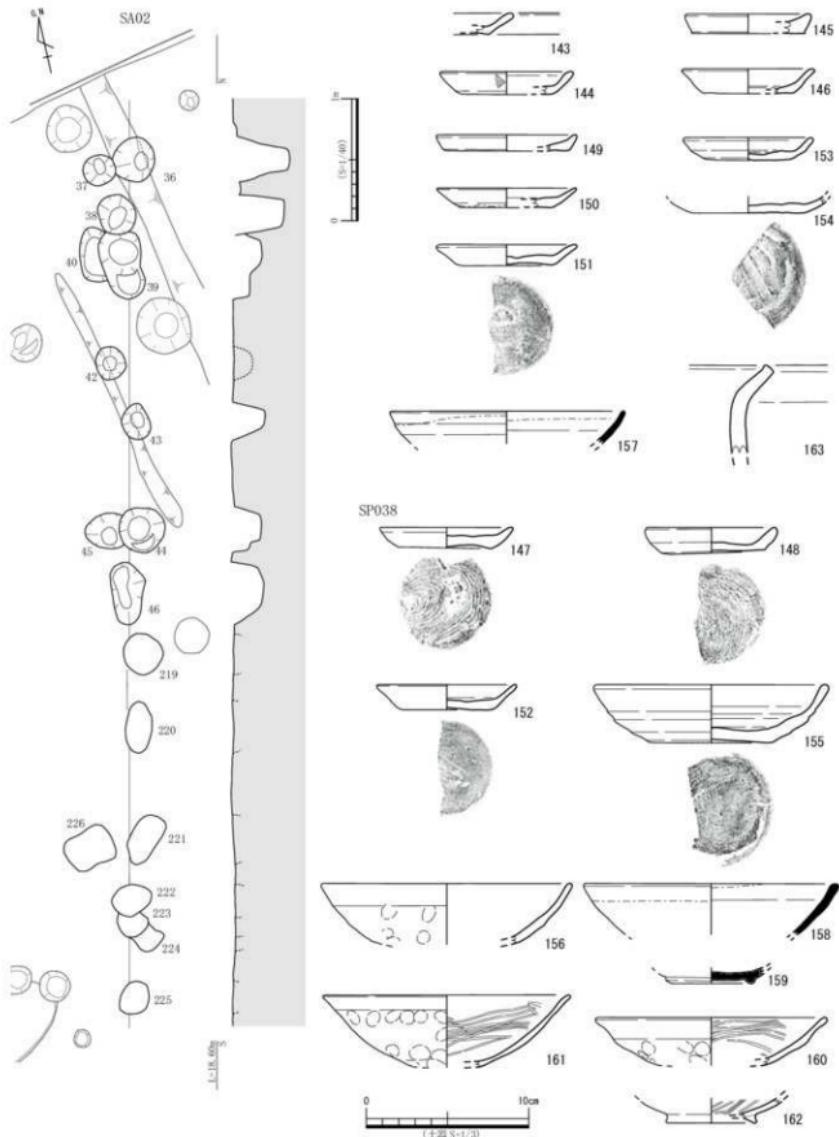
**出土遺物** 遺物はSP074から土師質土器鍋（164）と、図化できなかったがSP103から土師質土器小皿片や土師質土器片、サヌカイト片が出土した。164は土師質土器鍋である。体部を横ナデとハケで成形後、口縁部を折り曲げて強く横ナデを施す。

**所属時期** 具体的な年代は不明であるが、出土遺物と埋土の特徴から中世前半の所産であると考える。

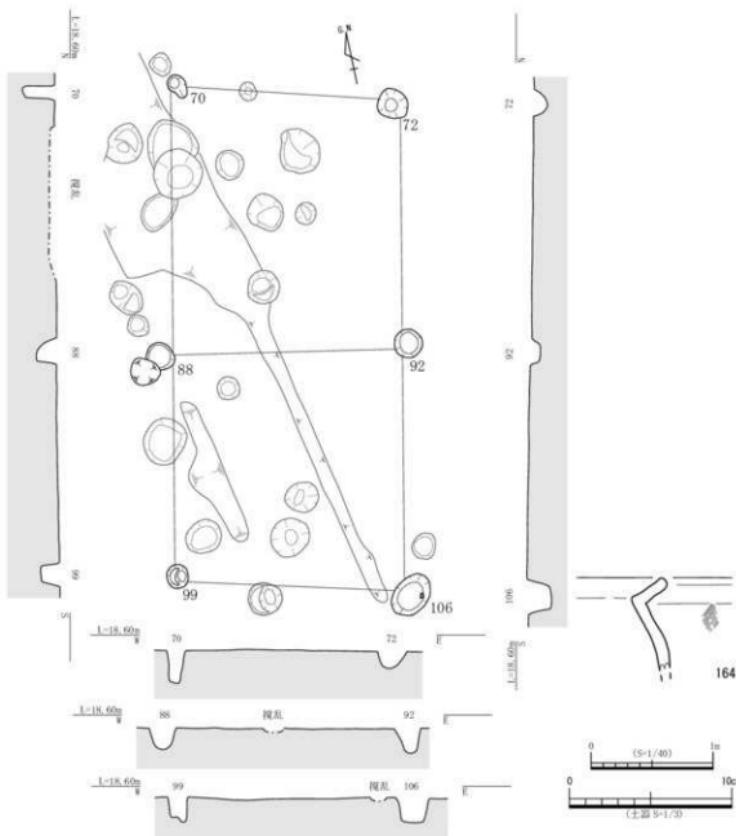
#### その他のビット (第28図) (第2表)

ビットを224基検出したが建物跡に復元できた遺構は3基のみであり、残り197基のビットの性格は付与できていない。遺構数や出土遺物の多さから、何らかの施設が存在していた可能性が考えられる。出土遺物は以下にまとめて報告する。個々の遺物の構造や共伴関係は構造観察表を参照されたい。

**出土遺物** 165～177は土師質土器小皿である。165～171は底部調整は回転糸切りである。165～



第26図 SA02 平・断面図 ( $S=1/40$ ) 出土遺物 ( $S=1/3$ )



第27図 SB01 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/3)

169までは体部断面が三角形である。全体的に胎土が粗く、口径は7.6～8.6cmである。169は見込みに静止糸切り痕があるため、円柱作りで作成されたと考えられる。底部調整の回転方向は右回転である。胎土は155と似ており、佐藤編年C II型式と考えられる。170は体部が内湾気味に延びる。底部調整の回転方向は右回転である。171は器壁が薄く体部が直線的に延びる。172～177は底部調整は回転ヘラ切りである。177以外は口径が7.6～8.0cmに収まる。176の底部調整は右方向の回転ヘラ切りのち板状圧痕を施す。177は口径が一回り大きく、9.0cmである。体部は直線的に延びる。178は土師質土器杯である。口縁部に強い回転ナデを施し、胎土は精良で橙色である。179は土師質土器碗底部である。底径が小さく、体部は強く湾曲して立ち上がる。内面底部に弧を描いた粘土紐が付着しており、重ね焼きによるものと考えられる。

180、181は須恵器椀底部である。181の外面調整は横方向のミガキ、内面調整は乱方向にハケ目状の板ナデである。内面にハケ目状の板ナデがあることから、佐藤編年椀A II -8又は9型式と考えられる。182～190は瓦器椀である。182は口縁部が直し外反しておらず、口縁端部に横方向からの沈線が入ることから楠葉産瓦器椀と考えられる。内面に隙間が見られないほど密に横方向のミガキを施す。183～190は和泉産瓦器椀である。外面にヘラミガキを施さないものが多く、器高が4cm程度で体部が直線的に延びることから尾上編年III -2～3期と考えられる。183、184は重ね焼きのため体部外面の炭素の吸着が弱く、須恵器椀に似る。また、185、186、190は全体的に炭素の吸着が弱い。190は口径が12.8cmと小ぶりであるが、内面のミガキはやや密に施し、高台も断面台形である。

191、192は中国産磁器である。191は龍泉窯青磁碗である。外面に継弁文が彫られているためII -b類である（太宰府市教委編2000）。192は白磁碗IV類である（太宰府市教委編2000）。内面に重ね焼きによるものと思われる釉の剥離と粘土の付着が確認できる。

193、194は土師質土器足釜である。193は口縁部が内側へ傾いている。194は口縁端部に平坦面がある。195、196は土師質土器鍋である。195は口縁端部の外面に強い横ナデを施し、外面屈曲部や口縁部内面にハケ目を施す。196の内面調整は粗い横方向ハケ目ないし横ナデ、外面調整は横ナデである。口縁端部内外面に一部指頭圧痕がある。197は十瓶産須恵器鉢である。外面調整は口縁部直下にタタキのち回転ナデを施す。内面口縁部を上方につまみ上げるため、佐藤編年鉢D3型式である。198は十瓶産須恵器甕である。体部の外面調整は格子タタキ目である。199は須恵器甕の肩部である。外面調整は平行タタキ目である。200は須恵器甕の体部である。外面調整は格子タタキ目である。

201～205は弥生土器である。201は甕の逆L字形の口縁部である。202は胴部片である。沈線を3条以上施す。203～205は甕の底部片である。S13は打製石鐵である。石材はサヌカイトである。

**所属時期** 土師質土器小皿には、底部調整が回転糸切りと回転ヘラ切りの両方が出土している。また、ハケ目状の板ナデを使用する須恵器椀や、尾上編年III -2、3期の和泉産瓦器椀、II -b類青磁碗が出土していることから、13世紀初頭から半ばと考えられる。

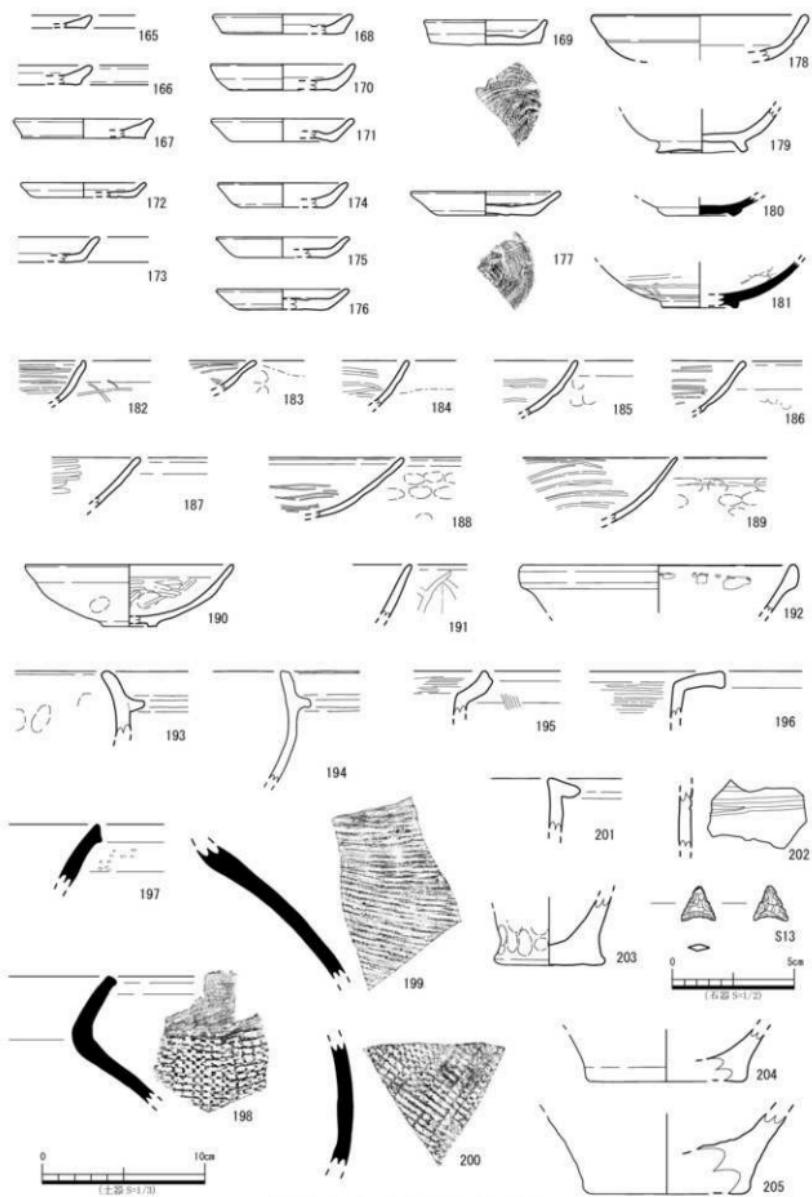
## (2) 井戸

### S E 01 (第29図)

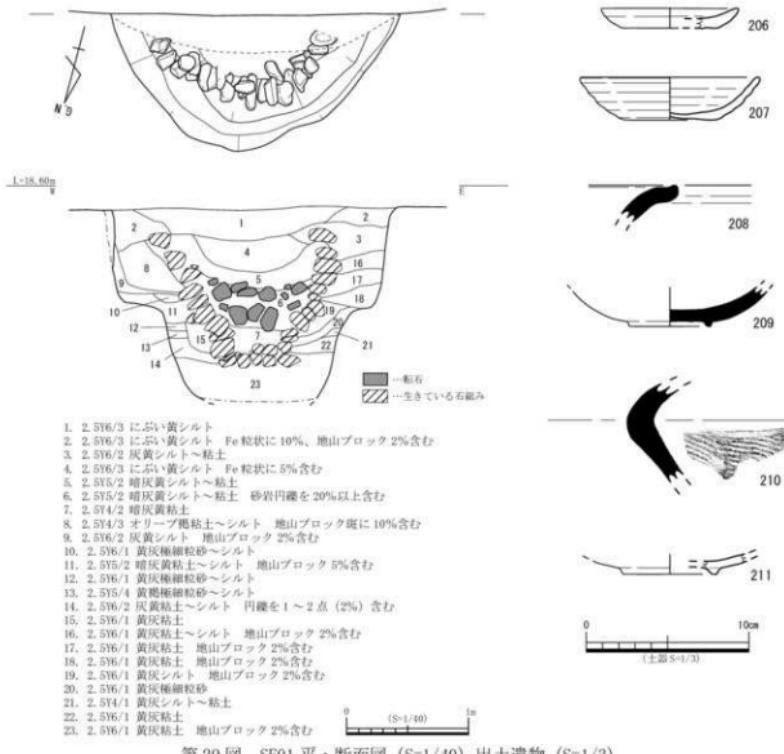
調査区基礎部分の南西で検出した石組み井戸である。長軸2.34m、最大深度1.56mを測る。ただしこれに述べるようにこれは本来の井戸の深度ではない。平面形状は、南半分以上が調査区の外になるが、円形と考えられる。素掘りで土坑を掘削したのち、内部に石材を積み上げて井側を構築する。井側に用いられるのは長径20cm程度の砂岩の円礫である。石材は丸みを帯びており、石材間に粘土の目地詰め等の使用は認められない。このため、井側を構築すると同時に背面に粘土（第29図8～22層）を小まみに充填しつつ構築されたものと考えられる。

断面図（第29図左）を見ると、井側を構成する石組みは下方に向かって段階的に狭くなり、断面形はいわゆる漏斗形を呈す。しかしながら、遺構が深く調査区境界に位置することもあり、垂直に断面を掘削することができず、緩やかな勾配を保持しつつ掘削せざるを得なかつた。そのため上半では井側の内部を掘削しているが、下半では井側の外側を掘削することとなつた。従つて、断面図の石材は、井側の本来の断面形を示したものではなく、井戸底までの深度は不明であり、断面形も漏斗形であるかは不明である。

井戸の埋没過程であるが、一定程度土砂が流入し埋没が進んだ（7層）後、砂岩円礫を多く含む6層が堆積する。石材は井側と共に通するため、井側が大規模に崩落したものと考えられ、井戸の機能は



第28図 ピット出土遺物 (S=1/3)



第29図 SE01 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/3)

この段階すでに果たしていない。なお、調査時には6層下面から湧水が認められた。その後、シルト層の流入(1～5層)により完全に平地化したものと考えられる。

**出土遺物** 石組み内部からは206～208が出土し、掘方からは209～211が出土した。206は土師質土器小皿である。底部調整は回転ヘラ切りであり、体部は内湾する。207は土師質土器杯である。器高が低いため、やや皿に近い形状である。体部に回転ナデによる顕著な凹凸があり、「口縁部→体部ナデ手法」で形成する。底部調整は磨滅のため不明瞭だが、若干帯状の平坦面があるため回転ヘラ切りと考えられる。胎土は白く器壁が薄い。208は須恵器鉢である。口縁端部は折り返して形成している。摩滅が激しく調整は不明瞭である。209は須恵器椀底部である。内面調整は単位不明瞭であるが、板ナデを施している。210は須恵器壺の肩部である。外面に並行タタキを施し、口縁部は強く横ナデすることによりタタキ目を消している。211は和泉産瓦器椀の底部である。貼り付け高台であり、断面は逆台形である。見込みは磨滅により調整が不明瞭である。その他、図化できなかったが石組み内部から瓦器片が出土しており、掘方からは土師質土器片、須恵器壺片が出土している。

**所属時期** 石組み内部や掘方から瓦器椀(211)が出土していることから、少なくとも13世紀半ば以降に開削されたと考えられる。また、石積み内部の埋土からは口径10.8cm、器高2.65cmを測る杯(207)が出土し、佐藤編年II-5期に該当する杯と法量が近く14世紀前葉のものと考えられる。以上のことから、井戸は13世紀半ば以降に開削され、14世紀前葉に廃絶したものと考えられる。

### (3) 土坑

#### S K 25 (第30図)

調査区基礎部分西側中央のSK09とSK27の間に位置する土坑である。長軸92cm、短軸63cm、深さ7cmで、SP129とSP130に切られる。出土遺物は図化できなかったが土師質土器片が出土している。

**所属時期** 埋土の特徴と土師質土器片が出土したことから中世の所産であると考えられる。

#### S K 26 (第30図)

調査区基礎部分西側の中央付近で検出した土坑である。長軸170cm、短軸57cm、深さ39cmであり、平面形状は楕円形である。層序は3つに分層でき、3層上面に一部平坦面があり、中心部分が落ち込んでいることから柱穴であった可能性が高い。出土遺物は大甕と共に弥生土器片や須恵器椀、瓦器片が出土しているが、図化には至っていない。

**所属時期** 瓦器片が出土していることから、周辺の遺構と同じく13世紀代と考えられる。

#### S K 27 (第30図)

調査区基礎部分西側の中ほどで検出した土坑である。長軸204cm、短軸162cm、深さ15cmであり、複数のピットに切られる。

**所属時期** 遺物は出土していないが埋土の特徴から中世の所産であると考えられる。

#### S K 28 (第30図)

調査区基礎部分西側のSE01の北に位置する。長軸90cm、短軸47cm、深さ15cmであり、SK29を切る。出土遺物は図化できなかったが土師質土器片が出土している。

**所属時期** 土師質土器が出土しており、埋土の特徴から中世の所産であると考えられる。

#### S K 29 (第30図)

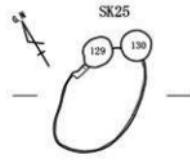
調査区基礎部分南西側のSE01付近で検出した土坑である。長軸86cm、短軸61cm、深さ30cmである。平面は楕円形である。SK12を切りSK28に切られる。出土遺物は土師質土器杯(212)のほか、須恵器片やサヌカイト片が出土した。

**出土遺物** 212は土師質土器杯である。端部がやや厚く、体部は緩やかに屈曲し、色調は白色である。

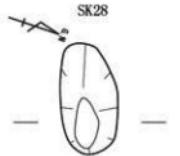
**所属時期** 土師質土器が出土しており、埋土の特徴から中世前半の所産であると考えられる。

#### S K 30 (第30図)

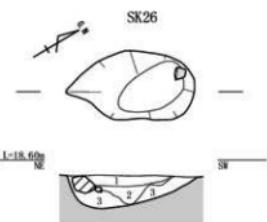
調査区基礎部分の西側最南端に位置する土坑である。長軸83cm、短軸60cm、深さ9cmで、調査区外に続くため全形は不明である。平面形がやや楕円形であること、SD05と同じく深さが9cmと浅いことからSD05に続く溝の可能性も考えられる。ただし、埋土が大きく異なることから別個の遺構として報告する。SD05と連続するものとした場合、主軸方位はN-13°～14°Eになる。図化はできなかつ



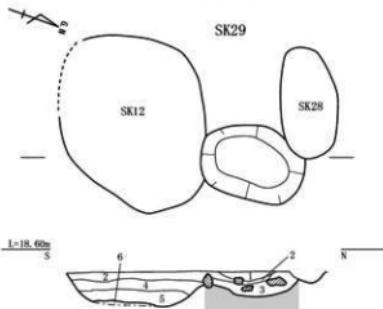
1. SY5/1 灰シルト



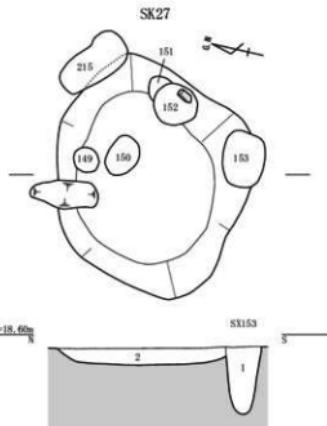
1. SY4/1 灰シルト



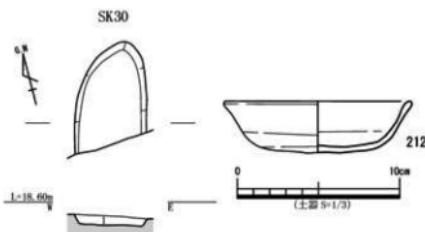
1. SY6/2 灰オーリーブ シルト Fe5%含む  
2. SY3/2 オーリーブ黒 シルト  
3. SY5/2 灰オーリーブ 粘土～シルト



1. 10YR5/2 灰黄褐色シルト  
2. 10YR4/2 灰黄褐色シルト(灰少量含む)  
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト  
4. 10YR3/2 黒褐色シルト(灰少量含む)  
5. 10YR3/3 明褐色シルト～粘土  
6. 10YR4/4 鹿粘土～シルト



1. SY4/1 灰シルト  
2. SY5/1 灰シルト



1. SY7/1 白灰シルト



第30図 SK25～30 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/3)

たが土師質土器片が出土している。

所属年代 土師質土器が出土しており、埋土の特徴から中世の所産であると考えられる。

#### (4) 溝

##### SD 03 (第31図)

調査区基礎部分の北東端で検出した。全長98cm、幅27cm、深さ4cmである。主軸方位は全長が短いため確定できなかった。埋土は単層であり、断面形状は西側半分が浅くなっている。

出土遺物 213は捕鉢又は捏鉢である。磨滅が著しい。他に図化できなかったが土師質土器片と、混入と考えられる弥生土器片が出土した。

所属時期 出土遺物と埋土の特徴から中世の所産であると考えられる。

##### SD 04 (第31図)

SD03の西1.5mで検出した溝で、擁壁部分まで延びると考えられる。途中は試掘調査で検査しておらず、全長8.1m、幅28cm、深さ8cmである。北端は擾乱を受け、南端は緩やかに浅くなり消滅している。主軸方位はN-18°-Eと条里地割に沿わない。

所属時期 遺物は出土していないが、埋土の特徴から中世の所産と考えられる。

##### SD 05 (第31図)

SA01の東側へ約50cm地点で検出した溝である。全長3.9m、幅53cm、深さ7cmで、SP18、19に切られる。主軸方位はSA01等と同様N-12°-Eである。前述したが、この溝と柵列を境に東西で遺構の密度が異なる。

出土遺物 214は和泉産瓦器碗である。口縁部を2回ナデ、内面にミガキを施す。その他図化していないが、土師質土器片、須恵器碗片が出土した。

所属時期 瓦器碗が出土しており、周囲の状況から13世紀代であると考えられる。

#### (5) その他

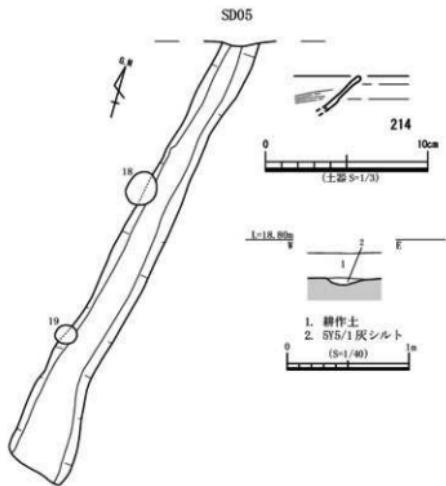
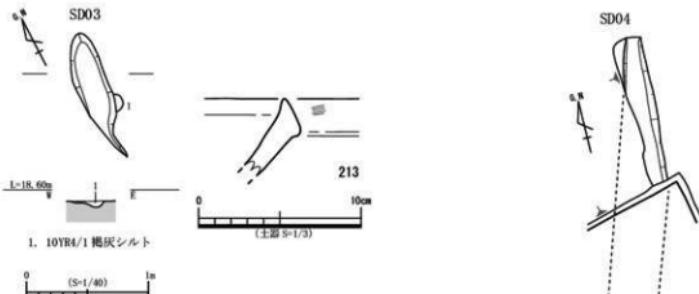
##### 西側擾乱 (第31図)

調査区基礎部分の北東側に位置し、SP075～078を切る擾乱である。遺物は北側壁面周辺から土師質土器杯、十瓶産須恵器碗、青磁碗が出土した。

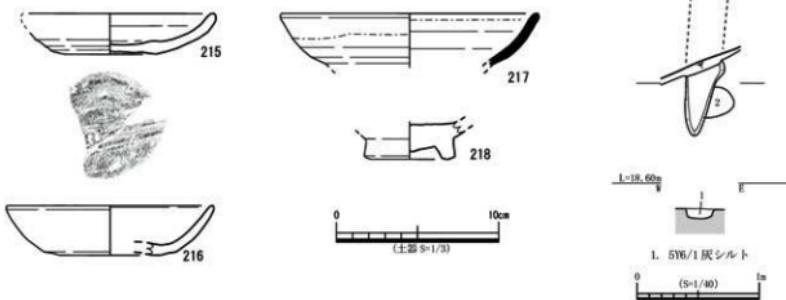
出土遺物 215、216は土師質土器杯である。215は体部が長く、口縁部を屈曲させている。底部調整は回転糸切りのち板状圧痕である。砂礫を多く含み、器壁が厚い個体である。歪みが大きいため、一部破線で復元した。全体的に磨滅が進んでいるが佐藤編年E-III型式と考えられる。216は全体が磨滅しているため、底部調整は不明である。217は須恵器碗である。口縁部は黒色化している。板ナデは確認できない。218は青磁碗底部である。削りだし高台で内面のみ施釉する。

#### (6)まとめ

中世の遺構は柵列2本、掘立柱建物跡1棟、溝3条、土坑6基、ピット197基(未掘削21基)を検出した。SD05の延長線上より西側に位置するピットは154基(未掘削10基)を数える。SD05を境に基盤部分の西半分に遺構が集中しており、居住域は西側及び南北へ広がる可能性が高い。



西侧擾乱



第31図 SD03～05 平・断面図 (S=1/40) 出土遺物 (S=1/3)

## 凡 例

1. ビット観察表は、報告した遺構ごとにSA01、SA02、SB01、その他のビットの4つに分けて作成した。

2. 観察表中の色調は以下の通りである。

A…5Y5/1 灰色 シルト

C…5Y4/1 灰 シルト

E…10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト

B…5Y6/1 灰 シルト

D…10YR3/1 黒褐色 シルト

F…5Y4/2 灰オリーブシルト

3. 図化した出土遺物に関しては( )を附して報告番号を記載した。

第1表 SA01、02、SB01 ビット観察表

遺構名	規模			平面形	埋土の色調	遺構の重複	出土遺物	備考
	長径	短径	深度					
<b>SA01</b>								
SP021	0.27	0.24	0.15	椭円	A	SP023に切られる	土師質土器縫(141),土師質土器片	
SP022	0.16	-	0.06	円	-			
SP023	0.34	0.2	0.21	椭円	A	SP021を切る	土師質土器片,瓦器片	
SP024	0.3	-	0.42	円	A		土師質土器小皿(132),(133),土師器片,須恵器片	
SP025	0.35	0.31	0.36	椭円	A		土師質土器小皿(128),(131),(135),(137),土師質土器杯片,十瓶座須恵器輪片,瓦器片	
SP026	0.29	0.24	0.19	椭円	A	SP027を切る	土師器片,須恵器片	
SP027	0.22	0.18	0.13	椭円	A	SP026に切られる	土師質土器小皿(134),(136)	
SP028	0.26	0.19	0.14	椭円	C	擾乱に切られる		
SP029	0.34	0.29	0.38	椭円	C	擾乱に切られる	土師質土器小皿(130),土師器片,瓦器片	
SP030	0.46	0.34	0.27	椭円	A	SP031を切る	土師質土器小皿(138),土師器片	
SP031	0.34	0.23	0.25	椭円	C	SP032を切り, SP030に切られる	土師質土器小皿(129),十瓶座須恵器輪(140),土師質土器片,十瓶座 須恵器輪片	
SP032	0.25	-	0.21	円	A	SP033を切り SP031に切られる	十瓶座須恵器輪(139),土師質土器片	
SP033	0.46	0.23	0.29	椭円	A	SP032に切られる	土師質土器縫(142),土師質土器片,土師質土器小皿片,須恵器輪片	
SP206	0.24	-	-	円	C	SD02を切る		未調剤
SP207	0.33	0.29	-	椭円	A	SP208を切る		未調剤
SP208	0.21	0.15	-	椭円	A	SP207に切られる		未調剤
SP209	0.23	0.21	-	椭円	A	SP210を切る		未調剤
SP210	0.22	0.19	-	椭円	A	SP209に切られる		未調剤
SP211	0.35	0.27	-	椭円	A			未調剤
SP212	0.22	0.2	-	椭円	A	擾乱に切られる		未調剤
<b>SA02</b>								
SP036	0.36	0.34	0.42	椭円	C	擾乱, SP037に切られる	土師質土器小皿(145),(150),土師質土器杯片	
SP037	0.26	0.24	0.38	椭円	C	SP036を切る	土師質土器小皿(143),土師質土器片,瓦器片	
SP038	0.34	0.31	0.39	椭円	C	SP039を切る	土師質土器小皿(147),(148),(152),杯(153),(156),十瓶座須恵器輪 (158),(159),和泉産瓦器縫(160),(161),(162),土師質土器片,須恵器輪 片	
SP039	0.48	0.34	0.25	椭円	C	SP040を切り SP038に切られる	土師質土器小皿(140),土師質土器片,須恵器輪片,瓦器片	
SP040	0.45	0.16	0.11	椭円	A	SP039に切られる	土師質土器小皿(151),土師質土器片	
SP042	0.26	0.21	0.18	椭円	A	擾乱に切られる	土師質土器片	

遺構名	規模			平面形	埋土の色調	遺構の重複	出土遺物	備考
	長径	短径	深度					
SP043	0.29	0.21	0.27	楕円	A	擾乱に切られる	土師質土器小皿(153),十瓶産須恵器碗(157),土師質土器片,十瓶産 須恵器片	SP080出土土器と接合する (157)
SP044	0.38	-	0.24	円	A	SP045を切る	土師質土器小皿(146),土師質土器片,須恵器片	
SP045	0.29	0.29	0.36	楕円	C	SP044に切られる	土師質土器杯(154),鏡(163),土師質土器小皿片,土師器片,サヌカイト 片	
SP046	0.52	0.29	0.28	楕円	A		土師質土器小皿(149),土師質土器片,瓦器片	
SP219	0.32	-	-	円	B			未調剤
SP220	0.42	0.21	-	楕円	B			未調剤
SP221	0.43	0.22	-	楕円	B			未調剤
SP222	0.33	0.26	-	楕円	B	SP223を切る		未調剤
SP223	0.24	0.17	-	楕円	B	SP222に切られ SP224を切る		未調剤
SP224	0.19	0.16	-	楕円	B	SP223に切られる		未調剤
SP225	0.27	0.23	-	楕円	A			未調剤
SP226	0.4	0.31	-	楕円	黄褐色 シルト			未調剤

#### SB01

SP070	0.2	0.17	0.27	楕円	A		土師質土器罐(164),土師質土器小皿片,瓦器片,サヌカイト片	
SP072	0.26	0.25	0.11	楕円	A・L・H 無し,花 崗土製 じり			
SP088	0.24	0.18	0.18	楕円	A	擾乱に切られる		
SP092	0.23	-	0.1	円	A			
SP099	0.19	0.17	0.21	楕円	A		土師器片,サヌカイト片	
SP106	0.38	0.27	0.2	楕円	A		須恵器片	

第2表 ピット観察表

遺構名	規模			平面形	埋土の色調	遺構の重複	出土遺物	備考
	長径	短径	深度					
SP001	0.16	0.07	0.14	楕円	C	SD03に切られる		
SP002	0.26	0.2	0.01	楕円	C	SD04に切られる		
SP003	0.47	0.28	0.45	楕円	-			
SP004	0.52	0.23	0.44	楕円	B・L・H なし			
SP005	0.7	0.37	0.04	楕円	C		土師質土器片	
SP006	0.77	0.55	0.14	不定形	E・L・H 無し			
SP007	0.12	0.1	0.13	楕円	C			
SP008	0.47	0.41	0.12	楕円	B		土師質土器片	
SP009	0.34	0.31	0.18	楕円	-			
SP010	0.61	0.34	0.24	楕円	B		土師質土器片	

遺構名	規模			平面形	埋土の色調	遺構の重複	出土遺物	備考
	長径	短径	深度					
SPO11	0.28	0.25	0.17	楕円	C しまり 無し	擾乱に切られる		
SPO12	0.23	0.22	0.09	楕円	F		土師質土器片	
SPO13	0.2	0.19	0.12	楕円	B			
SPO14	0.25	0.25	0.11	楕円	B		土師質土器片	
SPO15	0.22	0.19	0.12	楕円	A			
SPO16	0.31	0.22	0.24	楕円	B	SP017に切られる		
SPO17	0.23	0.21	0.07	楕円	A	SP016を切る		
SPO18	0.3	0.26	0.28	楕円	C	SD05を切る	土師質土器片,杯片,瓦器片	
SPO19	0.18	0.16	0.41	楕円	F	SD05を切る	ビニール	
SPO20	0.32	0.23	0.26	楕円	C	擾乱に切られる	和泉産瓦器(190),土師質土器片,須恵器片,十瓶産須恵器片	
SPO34	0.16	0.15	0.32	楕円	C			
SPO35	0.39	0.36	0.15	楕円	C		和泉産瓦器(186),瓦器片	
SPO41	0.46	0.44	0.17	楕円	C	擾乱に切られる	土師質土器小皿(171),和泉産瓦器(182),土師質土器片,杯片,十瓶 産須恵器片,瓦器片	
SPO47	0.3	-	0.27	円	B			
SPO48	0.29	0.23	0.3	楕円	B		土師質土器小皿(167),(176),和泉産瓦器(184),土師質土器片	
SPO49	0.26	0.22	0.11	楕円	B			
SPO50	0.15	0.14	0.1	楕円	B		土師質土器片,須恵器片	
SPO51	0.15	0.13	0.11	楕円	B		土師質土器小皿(175),土師質土器片,サスカイト片	
SPO52	0.2	0.19	0.1	楕円	A		土師質土器片	
SPO53	0.2	0.18	0.15	楕円	B		弥生土器(205),弥生土器片	
SPO54	0.15	-	0.18	円	E しまり 無し		土師質土器片	
SPO55	0.28	0.25	0.17	楕円	F		ビニール	
SPO56	0.14	-	0.49	円	A		土師質土器片	
SPO57	0.28	0.26	0.29	楕円	A		土師質土器片	
SPO58	0.32	0.3	0.3	楕円	A		土師質土器小皿(172),須恵器(198),(199),(200),白磁碗(192),土師 質土器片,須恵器片,瓦器片	
SPO59	0.15	-	0.1	円	A		土師質土器片	
SPO60	0.19	-	0.1	円	A			
SPO61	0.38	0.32	0.03	楕円	暗褐色 シルト	擾乱に切られる		
SPO62	0.42	0.33	0.25	楕円	A		土師質土器片	
SPO63	0.22	0.17	0.05	楕円	にぶい 黄褐色 シルト			
SPO64	0.21	0.16	0.23	楕円	A		土師質土器片	
SPO65	0.44	0.42	0.37	楕円	A 木片 含むし まり無し	擾乱に切られる	土師質土器片	
SPO66	0.18	0.14	0.1	楕円	A	擾乱に切られる	土師質土器片	
SPO67	0.24	-	0.09	円	A しまり 無し		土師質土器片	
SPO68	0.2	0.17	0.17	楕円	A		足釜(193),瓦器片	
SPO69	0.18	0.15	0.1	楕円	A しまり 無し		土師質土器片	
SPO71	0.16	0.14	0.06	楕円	A			
SPO73	0.3	0.25	0.13	楕円	D		土師質土器杯片	
SPO74	0.39	0.34	0.16	楕円	A しまり 無し		土師器片,サスカイト片	

造構名	規模			平面形	埋土の色調	造構の重複	出土遺物	備考
	長径	短径	深度					
SP075	0.34	0.28	0.2	縦円	C	擾乱に切られる	土師質土器片	
SP076	0.42	-	0.16	縦円	A	搅乱, SF077に切られる	土師質土器小皿(165), 土師質土器片, 須恵器片	
SP077	0.41	0.4	0.29	縦円	C(しまり無し)	SF076, SF078を切り 擾乱に切られる	土師質土器片	
SP078	0.36	0.24	0.11	縦円	A	搅乱, SF077に切られる	和泉産瓦器輪(183), 土師質土器片, 杯片, 瓦器片	
SP079	0.23	-	0.22	円	A			
SP080	0.32	0.3	0.33	縦円	C		土師質土器輪(179), 小皿(169), 十瓶産須恵器輪(181), 土師質土器小皿片, 杯片須恵器片, 瓦器片	SP043出土土器と接合する
SP081	0.19	-	0.26	円	A			
SP082	0.28	-	0.23	円	A	擾乱に切られる	土師質土器片, 瓦器片	
SP083	0.28	-	23	円	A		土師質土器小皿(174), 土師質土器片, 瓦器片, 弥生土器片	
SP084	0.49	0.42	0.31	縦円	A(しまり無し, 花園土 泥じり)		土師質土器片	
SP085	0.31	0.23	0.16	縦円	A		土師器片, 十瓶産須恵器輪片	
SP086	0.19	0.18	0.14	縦円	A		瓦器片	
SP087	0.3	-	0.2	円	B		土師質土器小皿(177), 土師質土器片, 瓦器片, 弥生土器片	
SP089	0.18	-	0.3	円	A			
SP090	0.38	0.33	0.1	縦円	A		和泉産瓦器輪(185), 土師質土器片, 瓦器片	
SP091	0.33	0.27	-	縦円	C			
SP093	0.46	0.44	0.08	縦円	C		土師質土器片, 磁器片	
SP094	0.27	0.26	0.3	縦円	B		土師質土器小皿(168), 土師質土器片, 須恵器片, 瓦器片	
SP095	0.32	0.3	0.24	縦円	A			
SP096	0.28	0.27	0.25	縦円	A		土師質土器片	
SP097	0.3	0.27	0.06	縦円	A		土師質土器片	
SP098	0.22	0.21	0.11	縦円	C(花園 土含む)		ビニール	
SP100	0.3	0.27	0.33	縦円	C		土師質土器小皿片, 杯片, 瓦器片, 磁器片	
SP101	0.4	0.27	0.28	縦円	A		土師質土器片, 瓦器片	
SP102	0.58	0.51	0.3	縦円	A	擾乱に切られる	弥生甕(201), (202), (204)サスカイト片, 弥生土器片, 土師器片	
SP103	0.38	0.28	0.22	縦円	A		弥生土器片, サスカイト片	
SP104	0.4	0.29	0.11	縦円	D		十瓶産須恵器輪(180), 瓦器片, 十瓶産須恵器輪片	
SP105	0.2	0.19	0.18	縦円	C		土師質土器小皿片, 土師質土器片	
SP107	0.26	-	0.17	円	A			
SP108	0.23	-	0.13	円	C		土師質土器片	
SP109	0.38	0.14	0.5	縦円	B		土師質土器片, 瓦器片	
SP110	0.27	0.24	0.1	縦円	A		須恵器片, 瓦器片, 弥生土器片	
SP111	0.28	-	0.17	円	B		土師質土器片	
SP112	0.12	0.13	0.11	縦円	-			
SP113	0.24	-	0.38	円	C		土師質土器片, 須恵器片, 瓦器片	
SP114	0.29	0.25	0.2	縦円	A	不明	土師質土器片, 小皿片, 瓦器片	
SP115	0.24	0.2	0.15	縦円	A	不明	土師質土器片, 須恵器片, 瓦器片	
SP116	0.35	0.25	0.18	縦円	A		土師質土器片, 小皿片, 須恵器片, 瓦器片	

遺構名	規模			埋土の色調	遺構の重複	出土遺物	備考
	長径	短径	深度				
SP117	0.2	0.23	0.12	縦円	B	土師質土器片,瓦器片	
SP118	0.34	0.33	0.26	縦円	A	和泉産瓦器焼(188),(189),土師質土器片,須恵器片,瓦器片,サスカイト片	
SP119	0.27	-	0.13	円	C	SK09を切る	土師質土器片
SP120	0.6	0.45	0.34	縦円	A	SK09を切る	青磁碗(191),土師器片
SP121	0.31	-	0.37	円	A		土師質土器片,瓦器片
SP122	0.45	0.28	0.43	縦円	A		足釜(194),土師質土器片,須恵器片,瓦器片,サスカイト片
SP123	0.5	0.34	0.08	縦円	A		土師質土器片,瓦器片
SP124	0.24	-	0.16	円	C		土師質土器片
SP125	0.34	0.3	0.46	縦円	D	SP126を切る	土師質土器片,須恵器片,瓦器片,弥生片
SP126	0.24	0.2	0.32	縦円	A	SP125に切られる	土師質土器片
SP127	0.31	0.27	0.32	縦円	C		土師質土器片,須恵器片,瓦器片,サスカイト片
SP128	0.23	0.2	0.4	縦円	C		土師質土器片(178),小皿(173),土師質土器片,須恵器片,瓦器片
SP129	0.28	0.23	0.18	縦円	-	SK25を切る	
SP130	0.25	-	0.21	円	-	SK25を切る	土師質土器片
SP131	0.2	0.18	0.07	縦円	A	SP132に切られる	
SP132	0.37	0.27	0.11	縦円	A	SP131を切る	
SP133	0.34	0.28	0.18	縦円	B		土師質土器焼(195),土師質土器片
SP134	0.3	0.28	0.16	縦円	B		瓦器片
SP135	0.25	0.2	0.23	縦円	B		
SP136	0.31	0.18	0.28	縦円	B		
SP137	0.4	0.33	0.32	縦円	B		
SP138	0.28	0.28	0.14	円	A		
SP139	0.27	0.25	0.15	縦円	A		
SP140	0.26	0.22	0.22	縦円	C		
SP141	0.23	0.22	0.15	縦円	C		
SP142	0.14	-	0.1	円	B		土師質土器片
SP143	0.19	0.18	0.05	縦円	A	SP144に切られる	
SP144	0.2	0.16	0.03	縦円	A	SP143を切り SP145に切られる	
SP145	0.38	0.31	0.28	縦円	-	SP144を切る	土師質土器片
SP146	0.42	0.34	0.15	縦円	C	SP147に切られる	土師質土器片
SP147	0.5	0.38	0.2	縦円	C	SP146,SP148を切り 須恵器鉢(197),土師質土器片	
SP148	0.19	0.14	0.05	縦円	A	SP147に切られる	
SP149	0.22	0.2	0.16	縦円	A	SK27を切る	
SP150	0.33	0.25	0.2	縦円	A	SK27を切る	
SP151	0.21	0.11	0.17	縦円	A	SK27を切り SP152に切られる	土師質土器片
SP152	0.37	-	0.27	円	-	SK27,SP151を切る	土師質土器小皿(170),土師質土器片
SP153	0.46	0.35	0.58	縦円	C	SK27を切る	土師質土器小皿(166),弥生土器焼(203),土師質土器片,須恵器片 横出面近くで 大破出土
SP154	0.26	0.23	0.3	縦円	C		
SP155	0.28	0.2	0.28	縦円	C		
SP156	0.37	0.25	0.1	縦円	A	SP157を切る	

遺構名	規模			平面形 縦横 深度	埋土の 色調	遺構の重複	出土遺物	備考
	長径	短径	深度					
SP157	0.41	0.27	0.22	縦円	B	SP158を切り SP156に切られる		
SP158	0.25	0.22	0.07	縦円	C	SP157に切られる		
SP159	0.24	0.22	0.22	縦円	B			
SP160	0.23	0.19	0.28	縦円	C			
SP161	0.21	0.17	0.11	縦円	A			
SP162	0.35	0.31	0.19	縦円	B		土師質土器片,サスカイト片	
SP163	0.19	0.18	0.13	縦円	A	SP164に切られる		
SP164	0.26	0.2	0.11	縦円	A	SP163を切る		
SP165	0.32	0.25	0.03	縦円	A	SP166を切る	土師質土器片	
SP166	0.32	0.23	0.02	縦円	-	SP167を切り SP165に切られる		
SP167	0.33	0.3	0.03	縦円	-	SP166に切られる	土師質土器片	
SP168	0.22	0.2	0.33	縦円	A		土師質土器片	
SP169	0.29	0.25	0.36	縦円	A		土師質土器片	
SP170	0.23	-	0.47	円	A		土師質土器(196),土師質土器片	
SP171	0.26	0.24	0.17	縦円	A		土師質土器小皿片	
SP172	0.24	0.21	0.3	縦円	A			
SP173	0.2	0.19	0.25	縦円	C	SK10を切る		
SP174	0.21	-	0.14	円	A	SK10を切る	須恵器片	
SP175	0.45	0.39	0.21	縦円	A		土師質土器片	
SP176	0.17	0.13	0.18	縦円	A	横丸に切られる	土師質土器片	
SP177	0.26	0.21	0.3	縦円	B			
SP178	0.46	0.34	0.19	縦円	B		土師質土器片,織器片	
SP179	0.34	0.25	0.15	縦円	B		和泉産瓦器(187),土師質土器片,須恵器片	
SP180	0.31	-	0.32	円	C		土師質土器片,須恵器片,瓦器片	
SP181	0.36	0.27	0.27	縦円	C			
SP182	0.42	0.38	0.18	縦円	C		土師質土器片,弥生土器片	
SP183	0.22	0.15	0.11	縦円	D			
SP184	0.34	0.29	0.4	縦円	A		土師質土器片,須恵器片,瓦器片	
SP185	0.22	-	0.13	円	C		土師質土器片,瓦器片	
SP186	0.46	0.38	0.14	縦円	B		土師質土器片,須恵器片	
SP187	0.38	0.33	0.21	縦円	A			
SP188	0.44	0.39	0.21	縦円	A		土師質土器片	
SP189	0.18	-	0.11	円	A			
SP190	0.25	0.24	0.27	縦円	A			
SP191	0.25	0.22	0.27	縦円	A			
SP192	0.25	-	0.1	円	-	SK13を切る	弥生土器片,サスカイト片	
SP193	0.21	0.2	0.1	縦円	-	SK13を切る		
SP194	0.36	0.2	-	縦円	C	SD02を切る		未削削
SP195	0.13	0.09	-	縦円	B			未削削
SP196	0.33	0.36	-	縦円	B			未削削

遺構名	規模			平面形 埋土の色調	遺構の重複	出土遺物	備考
	長径	短径	深度				
SP197	0.23	0.2	-	楕円	A		未調剤
SP198	0.47	0.2	-	楕円	A	擾乱に切られる	未調剤
SP199	0.24	0.2	-	楕円	A	擾乱に切られる	未調剤
SP200	0.32	0.3	-	楕円	A	擾乱に切られる	未調剤
SP201	0.21	0.17	-	楕円	A		未調剤
SP202	0.27	0.23	-	楕円	A		未調剤
SP203	0.25	0.21	-	楕円	A		未調剤
SP204	0.17	0.15	-	楕円	B		未調剤
SP205	0.33	0.31	-	楕円	C		未調剤
SP213	0.41	0.22	-	楕円	A	SP214を切る	未調剤
SP214	0.41	0.33	-	楕円	C	SP213に切られ SP215を切る	未調剤
SP215	0.18	0.1	-	楕円	A	SP214に切られる	未調剤
SP216	0.28	0.24	-	楕円	A		未調剤
SP217	0.28	0.27	-	楕円	C		未調剤
SP218	0.28	-	-	円	A		未調剤

## 第IV章　まとめ

今回の発掘調査では、弥生時代前期末～中期初頭及び中世前半の遺構を検出した。以下、各時代の遺構について周辺の調査結果を踏まえて概観する。

### （1）弥生時代前期末～中期初頭

弥生時代前期末～中期初頭の土坑 24 基（内、10 基は未掘削）と溝 2 条（内、1 条は未掘削）、堅穴建物跡 1 棟（未掘削）を検出した。これらの遺構は、空港跡地遺跡西部や多肥宮尻遺跡、宮西・一角遺跡で検出された堅穴建物跡や土坑と一連の集落のものの可能性が高く、集落は本調査区の北側及び西側に広がるものと想定される。

今回の調査を通して、本調査区周辺で検出される土坑は、出土遺物に時期差が無いことや層位と遺物の出土状況から一括遺物に近い性格を有すると考えられる。これらは当該期の土器編年構築の際に、有効な遺構となるだろう。そのため今回の報告では、器種が判明する口縁部形態及び胴部文様についてはできる限り図化した。今後の研究の一助となれば幸いである。

### （2）中世前半（13 世紀前半）（第 32 図）

柵列 2 本、掘立柱建物跡 1 棟、井戸 1 基、溝 3 条、ピット群を検出した。調査区の中央付近で検出した SD05 と柵列 SA01、SA02 の方位は、N=12°E で条里地割に沿っている。また、溝と柵列を境として西側にピットが集中しており、西側に建物が集中することが想定される。SD05 と SA01、SA02 は時期差が見られず SA01 と SA02 はピットの配置や規模に共通性が見られるためセット関係である可能性が高い。しかし、柱間距離が 90 cm のため SA01、SA02 のみで掘立柱建物として想定できない。上記を踏まえると、SA01、02 は 2 列の柱穴列を構造体にもつ壠の可能性が考えられる。その場合、SD05 は深さが 7cm であることと、SA01、02 と並行することから雨落ち構の可能性も考えられる。また、SA01 は SA02 との関係を重視したため南限は SP212 としたが、SP173 付近まで直線的に柵列が延びる可能性と、SP173 付近から西側へ 2 列にピットが連続することから逆 L 字状に柵列が延びる可能性の二通りが想定できる（第 32 図）。

本調査区の南に位置する宮西・一角遺跡 1、5 次調査区では、16 世紀の溝とピット群、墓が検出されており、屋敷地と評価されている。13 世紀に比定されるピットもいくつか検出され、弘福寺領譲岐国田園南地区 B 地区で井戸が検出されていることから周辺に集落の存在が指摘されていたが、今回の調査で検出した遺構はやや離れているため南側にも集落が存在する可能性がある。

遺物は供膳具が多い傾向にあり、主に土師質土器小皿、杯や瓦器碗が出土した。須恵器碗や中国産磁器も少数ではあるが出土している。空港跡地遺跡 IV 区画 1 と比較すると、空港跡地遺跡 IV 区画 1 では土師質土器の小皿、杯が多数を占め、他に須恵器碗、瓦器碗、土師質土器碗や中国産磁器が出土しており、本調査区の様相と著しい差異は見られない。その他、底部回転糸切りの小皿と杯（佐藤編年皿 C II 形式、杯 E III 形式）が出土している。この小皿と杯は 13 世紀第 2 ～ 4 四半期の間でのみ確認され、出土範囲に関しても空港跡地遺跡 IV 区画 1 に集中し、その周辺部の出土は少量にとどまる。形態や胎土から系譜関係が想定できず、形態や法量に個体差が大きいため、非專業的な集団による土器製作が想定されている（佐藤 2000）。本調査区は空港跡地遺跡 IV 区画 1 と同時期に展開する居住域であり、その周辺部と同じく区画 1 に偏在する土器が少数出土していることから、周辺部と同様の性格



第32図 中世遺構配置図（1/150）

を有すると考えられる。

また、やや時期が遡るが日暮・松林遺跡や多肥松林遺跡から多量の瓦器碗が出土しており、両遺跡は『讃岐の道者一円日記』から復元された中世高松平野の陸路と発掘調査成果から「海浜部の物資集積地と南海道を連絡させる」交通の中継地と評価されている（松本 2016）。このため、本調査区から出土した瓦器碗は距離的に近い日暮・松林遺跡、多肥松林遺跡周辺から供給されたものと考えられる。

以上をまとめると、本調査区の柵列を境に西側では複数の建物跡が想定され、居住域が広がっていると考えられることは報告でも述べたとおりである。この居住域から出土した遺物については、瓦器碗を含む供膳具が多いことや空港跡地遺跡IV区画1に偏在する土師質土器小皿、杯が出土するということが指摘できる。このような土器様相は、同時期の空港跡地遺跡IV区画1の周辺部でもみられ、本調査区の居住域が同様の性格を有していたと考えられる。

当該地は、弘福寺領讃岐国山田郡田園南地区の比定地にあたる。高松市教育委員会は比定地周辺の条里地割を復元したが歪みが大きかったため、木下氏が改めて空港跡地遺跡全体の条里地割を復元しており（木下 2002）、この復元図によると当該地は山田郡8条10里8坪に相当する。田図では「津田一町上 直米五石」と記載されており、田として把握された箇所にあたる。しかし古代に比定できる遺構・遺物や水田面は確認できなかった。このため今回の調査でも比定地の確定には至らなかった。

#### 参考文献

木下晴一 2002 『弘福寺領讃岐国山田郡田園』との関連』『空港跡地遺跡V』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文

化財調査センター・香川県土地開発公社

佐藤竜馬 2000 「土師質土器の生産・流通形態 - 糸切り底の小皿・杯からみた -」『空港跡地遺跡IV』香川県教育委員会・

(財) 香川県埋蔵文化財調査センター・香川県土地開発公社

佐藤竜馬 2016 「伊勢御師が見た讃岐」『中世港町論の射程 港町の原像: 下』岩田書院

松本和彦 2016 「陸上交通路と物資流通拠点」『多肥松林遺跡』香川県教育委員会

第3表 土器觀察表

擇因 番号	遺構名 /層位	種類	器種	部位	法量(cm)		調整		色調		胎土	焼成	備考	
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
1	SK01	弥生土器	甕	(12.5)	6.0	[15.5]	沈縫条・ナ デ・指押さえ・ 摩減	ナデ・指押さえ	10YR6/25黄褐	10YR6/25黄褐	5mm以下の石英、 青長石・赤色粒・黑 色粒を含む	良	内・外表面黒 斑、保	
2	SK01	弥生土器	甕	口縁	-	-	[3.5]	ナデ・指押さ え・摩減	ナデ・摩減	10YR7/35.5-45 黄褐	10YR7/35.5-45 黄褐	4mm以下の石英、 青長石・赤色粒を含 む	良	
3	SK01	弥生土器	甕	口縁	-	-	[1.8]	刻目・摩減	摩減	7.5YR6/45.5-55 黄褐	7.5YR7/45.5-55 黄褐	6mm以下の石英、 青長石・赤色粒を含 む	良	
4	SK01	弥生土器	甕	口縁	-	-	[1.8]	刻目・ナデ・指 押さえ	指押さえ・摩減	10YR7/35.5-45 黄褐	10YR8/25白	青 長石・赤色粒を含 む	良	
5	SK01	弥生土器	甕	口縁	(19.0)	-	[6.2]	ナデ・板ナデ	ナデ・摩減	10YR7/25.5-35 黄褐	10YR8/15白	9mm以下の石英、 青長石・赤色粒・黑 色粒を含む	良	
6	SK01	弥生土器	甕	口縁	(12.0)	-	[3.5]	摩減	摩減	10YR7/35.5-45 黄褐	2.5YR7/25黄	6mm以下の石英、 青長石・赤色粒を含 む	良	
7	SK01	弥生土器	甕	口縁	(14.8)	-	[2.5]	ナデ	ナデ	10YR8/25白	10YR8/25白	4mm以下の石英、 青長石・赤色粒を含 む	良	
8	SK01	弥生土器	甕	口縁	(9.6)	-	[4.8]	沈縫3条以上・ 摩減	摩減	2.5YR7/4浅黄	2.5YR7/4浅黄	5mm以下の石英、 青長石・3mm以下 の赤色粒を含む	良	
9	SK01	弥生土器	甕	頸部	-	-	[5.6]	刻目突帯1条・ 摩減	ナデ・指押さえ	2.5YR7/3浅黄	10YR7/45.5-55 黄褐	4mm以下の石英、 青長石・3mm以下 の赤色粒を含む	良	
10	SK01	弥生土器	杯		9.3	5.6	[7.6]	ナデ・指押さえ	ナデ	7.5YR6/6暗	7.5YR6/6暗	5mm以下の石英、 青長石・多量の赤色 粒を含む	良	
11	SK01	弥生土器	蓋		5.2	-	[8.5]	ナデ・ハケ目	ナデ・指押さえ	7.5YR6/45.5-55 黄褐	10YR6/45.5-55 黄褐	6mm以下の石英、 青長石・赤色粒を含 む	良	外表面黒斑
12	SK01	弥生土器	蓋	体部	-	-	[6.7]	ナデ・沈縫6条	ナデ・指押さえ	7.5YR6/45.5-55 黄褐	10YR5/35.5-45 黄褐	5mm以下の石英、 青長石・3mm以下 の赤色粒を含む	良	外表面黒斑
13	SK01	弥生土器	不明	体部	-	-	[6.2]	～ラジ沈縫10 条・摩減	摩減	5YR5.6明赤褐	10YR7/45.5-55 黄褐	6mm以下の石英、 青長石・赤色粒・黑 色粒を含む	良	
14	SK01	弥生土器	不明	体部	-	-	[3.5]	刻目突帯4条以 上・摩減	摩減	10YR7/35.5-45 黄褐	10YR7/25.5-35 黄褐	3mm以下の石英、 青長石・赤色粒を含 む	良	
15	SK01	弥生土器	不明	体部	-	-	[6.8]	刻目突帯5条以 上・摩減	摩減	N/A/灰	2.5YR7/6暗	5mm以下の石英、 青長石・赤色粒・黑 色粒を含む	良	
16	SK01	弥生土器	甕	体部	-	-	[4.5]	刻目突帯2条・ ナデ・摩減	摩減	2.5YR7/3浅黄	10YR7/45.5-55 黄褐	4mm以下の石英、 青長石・3mm以下 の赤色粒を含む	良	
17	SK01	弥生土器	不明	体部	-	-	[2.6]	沈縫1条以上・ ヨコナデ	ナデ	5YR5/45.5-55 赤褐	10YR6/1深灰	3mm以下の石英、 青長石・赤色粒を含 む	良	外表面黒斑
18	SK01	弥生土器	不明	体部	-	-	[3.9]	突起2条以上・ ナデ	摩減	10YR8/25白	10YR8/25白	6mm以下の石英、 3mm以下の長石を 含む	良	複合模
19	SK01	弥生土器	甕	底部	-	(8.4)	[8.5]	ナデ	摩減	10YR7/35.5-45 黄褐	2.5YR7/35.5-45 黄褐	4mm以下の石英、 青長石・赤色粒・黑 色粒を含む	良	
20	SK01	弥生土器	甕	底部	-	(11.6)	[4.5]	ナデ・指押さ え・摩減	指押さえ・摩減	10YR5/35.5-45 黄褐	10YR6/35.5-45 黄褐	5mm以下の石英、 青長石・2mm以下 の赤色粒を含む	良	
21	SK01	弥生土器	甕	底部	-	9.0	[3.5]	摩減	指押さえ・摩減	7.5YR8/25白	10YR7/35.5-45 黄褐	5mm以下の石英、 青長石・赤色粒を含 む	良	
22	SK01	弥生土器	甕	底部	-	(7.6)	[5.6]	摩減	摩減	2.5YR8/4浅黄	2.5YR8/4浅黄	3mm以下の石英、 青長石・赤色粒を含 む	良	
23	SK01	弥生土器	蓋	底部	-	(15.0)	[5.7]	摩減	ナデ・指押さ え・摩減	2.5YR8/15白	2.5YR8/25黄	5mm以下の石英、 青長石・赤色粒・黑 色粒・黒斑を含む	良	
24	SK01	弥生土器	蓋	底部	-	(10.0)	[4.8]	指押さえ・摩減	指押さえ・摩減	10YR8/25白	5Y4/1灰	2mm以下の中間 石・3mm以下の長 石を含む	良	
25	SK01	弥生土器	蓋	底部	-	(9.2)	[5.6]	指押さえ・摩減	摩減	10YR8/25白	2.5YR8/25白	5mm以下の中間 石・3mm以下の中 間石を含む	良	外表面黒斑
26	SK01	弥生土器	不明	底部	-	(9.6)	[3.5]	摩減	摩減	2.5YR8/3浅黄	2.5YR8/6浅黄	5mm以下の中間 石・3mm以下の中 間石を含む	良	
27	SK02	弥生土器	不明	体部	-	-	[3.9]	突起2条以上・ 摩減	摩減	10YR8/25白	2.5YR8/3浅黄	4mm以下の中間 石・3mm以下の中 間石を含む	良	

排図番号	道標名/席位	種類	器種	部位	法量(cm)			調整		色調		胎土	焼成	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
28	SK02	弥生土器	不明	体部	—	—	[4.1]	裏部3条以上・ヨコナデ	摩滅	2.5M8/1灰白	2.5M8/2灰白	9mm以下の石英・ 長石・赤色鉱・黒 色鉱を含む	良	接合痕
29	SK03	弥生土器	甕	口縁	(17.2)	—	[4.2]	疣縞条・ナ デ・指押さえ・ 摩滅	ヨコナデ	10M7/3にぶい 黄緑	10M7/2にぶい 黄緑	4mm以下の石英・ 長石・赤色鉱を含 む	良	
30	SK03	弥生土器	甕	口縁	—	—	[4.6]	刻目・ヨコナデ	ヨコナデ	2.5M8/3灰黃	10M8/4灰黃	4mm以下の石英・ 長石を含む	良	外面接合 黒斑
31	SK03	弥生土器	甕	口縁	—	—	[5.6]	～フ然沈線入り 条紋・ナデ	ナデ・摩滅	10M6/3にぶい 黄緑	10M6/3にぶい 黄緑	3mm以下の石英・ 長石を多量に含む	良	
32	SK03	弥生土器	甕	口縁	—	—	[2.6]	摩滅	摩滅	10M6/2灰黄緑	7.5M7/4にぶい 黄緑	3mm以下の石英・ 長石・赤色鉱を含 む	良	
33	SK03	弥生土器	甕	口縁	—	—	[2.1]	摩滅	摩滅	7.5M6/3にぶい 黄緑	7.5M6/3にぶい 黄緑	4mm以下の石英・ 長石を含む	良	
34	SK03	弥生土器	甕	口縁	(11.7)	—	[2.6]	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5M6/1灰黄	2.5M5/1灰黄	5mm以下の石英・ 長石・赤色鉱を含 む	良	
35	SK03	弥生土器	甕	口縁	—	—	[2.4]	刻目・ナデ・摩 滅	ナデ・摩滅	7.5M6/4にぶい 黄緑	7.5M5/4にぶい 黄緑	3mm以下の石英・ 長石・赤色鉱を含 む	良	
36	SK03	弥生土器	甕	口縁	(6.4)	—	[1.9]	ナデ・摩滅	回帯文テ・ナデ	10M7/4にぶい 黄緑	10M7/4にぶい 黄緑	4mm以下の石英・ 長石を多量に含む	良	
37	SK03	弥生土器	不明	体部	—	—	[4.3]	疣縞条以上・ ナデ	摩滅	7.5M8/1灰 白・7.5M7/4 黄緑	7.5M8/1灰白	5mm以下の石英・ 長石・赤色鉱を含む	良	
38	SK03	弥生土器	不明	体部	—	—	[3.9]	疣縞条以上・ 刻目突起1条	指押さえ・マ ツフ	5M8/6灰	7.5M6/4にぶい 黄緑	5mm以下の石英・ 長石・赤色鉱を含 む	良	接合痕
39	SK03	弥生土器	甕	底部	(8.0)	[4.7]	ヨコナデ	ナデ・摩滅	ナデ・摩滅	10M6/2灰黄	10M6/2灰黄	5mm以下の石英・ 長石を多量に含む	良	
40	SK03	弥生土器	甕	底部	(8.0)	[5.0]	ナデ・ヨコナデ	ナデ	7.5M7/3にぶい 黄緑	10M5/2灰黄	4mm以下の石英・ 長石・赤色鉱を含 む	良		
41	SK03	弥生土器	甕	底部	(11.0)	[4.1]	ナデ・ハケ目	ナデ・摩滅	5M6/6灰	7.5M6/3にぶい 黄緑	6mm以下の石英・ 長石を多量に含む	良		
42	SK03	弥生土器	不明	底部	(11.0)	[2.4]	ナデ	ナデ・指押さえ	ナデ	2.5M5/6明串 緑	2.5M7/4灰黄	9mm以下の石英・ 長石・赤色鉱・黑 色鉱を含む	良	
43	SK03	弥生土器	不明	底部	(6.0)	[2.6]	ヨコナデ・工具	指押さえ	ナデ	10M8/1灰白	10M7/2にぶい (NA)灰白	2.5mm以下の石 英・長石を含む	良	外面接合 深
44	SK04	弥生土器	甕	口縁～ 体部	(29.4)	—	[19.5]	沈縞・輪變文・ ヨコナデ・摩滅	ナデ・ハケ目・ 指押さえ・摩滅	5M6/6灰	5M5/6灰	7mm以下の石英・ 長石を含む	良	
45	SK04	弥生土器	甕	口縁～ 体部	(21.8)	—	[17.9]	沈縞・輪變文・ ナデ・摩滅	摩滅	5M6/6灰	5M6/4にぶい 黄緑	5mm以下の石英・ 長石を含む	良	
46	SK04	弥生土器	甕	口縁～ 体部	(14.8)	—	[8.5]	刻目・ナデ	ナデ	7.5M7/4にぶい 黄緑	7.5M7/4にぶい 黄緑	2.5mm以下の石英・ 長石を含む	良	端材
47	SK04	弥生土器	甕	口縁	—	—	[5.7]	筋縞文縞文14 条・ヨコナデ・ 摩滅	ヨコナデ・指押 さえ・摩滅	7.5M7/3にぶい 黄緑	5M6/6灰	2mm以下の石英・ 長石を含む	良	
48	SK04	弥生土器	甕	口縁	—	—	[2.4]	摩滅	摩滅	5M6/6灰	2.5M6/6灰	3mm以下の石英・ 長石を含む	良	
49	SK04	弥生土器	甕	口縁～ 体部	(23.4)	—	[15.6]	摩滅	指押さえ・摩滅	7.5M6/4にぶい 黄緑	7.5M6/2灰	4mm以下の石英・ 長石を含む	良	
50	SK04	弥生土器	甕	口縁～ 体部	(24.0)	—	[6.8]	摩滅	ナデ・指押さえ	10M5/4青灰	7.5M6/4にぶい 黄緑	4mm以下の石英・ 長石を含む	良	
51	SK04	弥生土器	甕	口縁	—	—	[2.7]	指押さえ・摩滅	摩滅	2.5M5/8明串 緑	2.5M6/6灰	2mm以下の石英・ 長石を含む	良	外面接合痕
52	SK04	弥生土器	甕	底部	(6.0)	[7.9]	ナデ・摩滅	ナデ	10M7/4にぶい 黄緑	10M7/4にぶい 黄緑	2.5mm以下の石英・ 長石を含む	良		
53	SK05	弥生土器	甕	口縁～ 体部	—	—	[9.2]	摩滅	摩滅	7.5M5/2灰	7.5M4/1灰	3mm以下の石英・ 長石・赤鉄鉱を含む	良	
54	SK05	弥生土器	甕	口縁	—	—	[3.3]	ヨコナデ・摩滅	ヨコナデ・摩滅	7.5M7/6灰	7.5M7/6灰	2.5mm以下の石英・ 長石を含む	良	
55	SK05	弥生土器	甕	口縁	—	—	[4.6]	ナデ・摩滅	ナデ・摩滅	5M5/1灰	5M5/1灰	3mm以下の石英・ 長石・赤鉄鉱を含 む	良	
56	SK05	弥生土器	甕	口縁	—	—	[2.2]	ヨコナデ	ヨコナデ・摩滅	7.5M6/3にぶい 黄緑	7.5M6/6灰	4mm以下の石英・ 長石・赤鉄鉱を含 む	良	
57	SK05	弥生土器	甕	口縁	—	—	[1.8]	ヨコナデ・摩滅	ヨコナデ・摩滅	7.5M6/6灰	7.5M6/6灰	4mm以下の石英・ 長石を含む	良	

博団 番号	造構名 /層位	種類	器種	部位	法量(cm)			調整		色調		胎土	焼成	備考			
					口径	底径	器高	外面		内面							
								外面	内面	外面	内面						
58	弥生土器	甕	口縁	一	—	[2.2]	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5W6/6縁	7.5W6/6縁	青	1cm以下の石英・長石を含む	真	外面:黒斑			
59	弥生土器	甕	口縁	一	—	[3.1]	ナデ・ミガキ・摩滅	ナデ	10W7/3にぶい黄緑	10W6/3にぶい黄緑	青	6mm以下の石英・長石を多めに含む	真				
60	弥生土器	甕	底部	—	(9.0)	[7.6]	ナデ・ミガキ	摩滅	5W6/6縁	5W7/6縁	青	3cm以下の石英・長石を含む	真				
61	弥生土器	甕	底部	—	5.3	[4.7]	ナデ	ナデ・摩滅	7.5W7/6縁	7.5W7/4にぶい縁	青	3cm以下の石英・長石を含む	真	外面:黒斑			
62	弥生土器	甕	口縁	—	—	[6.5]	削鉛直腹文・削突文・ナデ・摩滅	ナデ	7.5W7/4にぶい縁	7.5W7/6縁	青	1cm以下の石英・長石・赤色鉱・黑色鉱を含む	真				
63	弥生土器	甕	口縁	—	—	[3.9]	摩滅	摩滅	10W8/2底白	2.5W/1底白	青	2cm以下の石英・長石・赤色鉱・黑色鉱を含む	真				
64	弥生土器	甕	口縁	—	—	[3.0]	摩滅	摩滅	5W7/6縁	5W7/6縁	青	3cm以下の石英・長石を含む	真				
65	弥生土器	甕	口縁	—	—	[2.2]	ナデ	ナデ	5W6/6縁	5W6/4にぶい縁	青	2cm以下の石英・長石・赤色鉱・黑色鉱を含む	真				
66	弥生土器	甕	口縁	—	—	[1.9]	摩滅	ナデ	7.5W7/4浅黄	10W8/3浅黄相	青	1cm以下の石英・長石・赤色鉱・黑色鉱を含む	真				
67	弥生土器	甕	口縁	—	—	[1.1]	ナデ	ナデ	10W6/3にぶい縁	7.5W7/4にぶい縁	青	1cm以下の石英・長石・赤色鉱・黑色鉱を含む	真	外面:煤化			
68	弥生土器	甕	口縁	—	—	[1.2]	摩滅	摩滅	N3/開灰	7.5W6/6縁	青	2cm以下の石英・長石・赤色鉱・黑色鉱を含む	真				
69	弥生土器	鉢	口縁	(20.9)	—	[3.4]	ナデ・指押さえ・摩滅	ナデ・摩滅	7.5W6/4にぶい縁	7.5W6/3にぶい縁	青	2cm以下の石英・長石・赤色鉱・黑色鉱を含む	真				
70	弥生土器	甕	口縁	—	—	[3.2]	ナデ	摩滅	7.5W6/4にぶい縁	7.5W4/4縁	青	2cm以下の石英・長石・赤色鉱を含む	真				
71	弥生土器	不明	体部	—	—	[2.1]	へづ指捺縞	摩滅	10W8/3浅黄相	7.5W7/4にぶい縁	青	2cm以下の石英・長石・赤色鉱・黑色鉱を含む	真				
72	弥生土器	甕	底部	—	(6.4)	[7.6]	ナデ・摩滅	ナデ	5W6/4にぶい縁	7.5W5/1開灰	青	1cm以下の石英・長石・赤色鉱・黑色鉱を含む	真	外面:煤化			
73	弥生土器	甕	底部	—	8.0	[5.9]	ナデ	ナデ	7.5W6/4浅黄相	7.5W6/3浅黄相	青	2cm以下の石英・長石を含む	真	底部:穿孔			
74	弥生土器	甕	口縁	—	—	[6.2]	ナデ	ナデ・指押さえ	7.5W5/4にぶい縁	10W6/4にぶい縁	青	1cm以下の石英・長石・赤色鉱・黑色鉱を含む	真				
75	弥生土器	甕	口縁	—	—	[3.4]	ヨコナデ・摩滅	摩滅	10W8/1底白	10W8/2底白	青	2cm以下の石英・長石を含む	真				
76	弥生土器	甕	口縁	—	—	[2.2]	ナデ	ナデ	2.5W4/4にぶい縁	2.5W4/3にぶい縁	青	2cm以下の石英・長石を含む	真	接合痕			
77	弥生土器	甕	口縁	—	—	[2.2]	ヘラ指捺縞2条以上・ヨコナデ	ナデ・摩滅	10W7/3にぶい縁	10W8/1底白	青	3cm以下の石英・長石を含む	真				
78	弥生土器	甕	口縁	—	—	[2.1]	ヘラ指捺縞4条・ヨコナデ	摩滅	7.5W4/2縁	7.5W5/1開灰	青	4cm以下の石英・長石を含む	真				
79	弥生土器	甕	底部	—	(11.6)	[5.6]	ミガキ・ナデ	摩滅	N3/開灰	2.5W5/1底白	青	2cm以下の石英・長石を含む	真				
80	弥生土器	甕	口縁～体部	(25.6)	—	[17.9]	削鉛直腹文2条・削突文・ヨコナデ	摩滅	2.5W5/6明串相	2.5W6/4にぶい縁	青	3cm以下の石英・長石を含む	真				
81	弥生土器	甕	口縁～体部	—	—	[7.9]	削鉛直腹文17条	摩滅	5W6/6縁	2.5W7/6縁	青	2cm以下の石英・長石を含む	真				
82	弥生土器	甕	口縁～体部	(14.3)	—	[11.5]	削鉛直腹文・削突文・ヨコナデ・摩滅	摩滅	7.5W7/4にぶい縁	10W8/1底白	青	2cm以下の石英・長石を含む	真	外面:煤化			
83	弥生土器	甕	底部	—	(6.8)	[4.1]	ナデ	ナデ	2.5W5/6明串相	2.5W5/1串灰	青	2cm以下の石英・長石を含む	真				
84	弥生土器	甕	口縁	—	—	[8.6]	摩滅	摩滅	10W8/4にぶい縁	7.5W5/2縁	青	2cm以下の石英・長石を含む	真				
85	弥生土器	甕	口縁	—	—	[7.6]	ナデ	ナデ	5W7/6縁	5W7/6縁	青	2cm以下の石英・長石を含む	真				
86	弥生土器	甕	口縁	—	—	[3.6]	摩滅	摩滅	10W8/3浅黄相	10W8/2底白	青	2cm以下の石英・長石・赤色鉱を含む	真				

揮國 番号	遺構名 /層位	種類	器種	部位	法量(cm)		調整		色調		胎土	焼成	備考	
					口径	底径	器高	外側	内側	外側	内側			
87	SK11	弥生土器	甕	口縁	-	-	[3.9]	ナゲ	ナゲ	5YR6/6暗	2.5YR6/8暗	青 5mm以下の石英・ 長石を含む	良	
88	SK11	弥生土器	甕	口縁	-	-	[2.1]	摩滅	摩滅	7.5YR7/4にぶ い緑	7.5YR7/4にぶ い緑	3mm以下の石英・ 長石・赤色粘・黒 色粘を含む	良	
89	SK11	弥生土器	甕	口縁	-	-	[1.3]	ナゲ・摩滅	ナゲ	5YR6/8暗	10YR8/3浅黄相	青 5mm以下の石英・ 長石を含む	良	
90	SK11	弥生土器	甕	口縁	-	-	[3.0]	摩滅	突唇文・摩滅	7.5YR8/4浅黃 相	10YR7/3にぶい 黄緑	青 2mm以下の石英・ 長石・赤色粘・黒 色粘を含む	良	
91	SK11	弥生土器	甕	底部	-	5.2	[5.7]	ナゲ・指押文ナ ゲ・指押文ナ	ナゲ・指押文ナ ゲ	2.5YR6/6暗	5YR5/2灰暗	青 5mm以下の石英・ 長石を含む	良	
92	SK11	弥生土器	甕	底部	-	(11.0)	[5.6]	ハク残文ガラ	ナゲ	10YR7/3にぶい 黄緑	2.5YR8/2灰白	3mm以下の石英・ 長石・赤色粘を含 む	良	
93	SK12	弥生土器	甕	口縁	(29.0)	-	[5.4]	ナゲ・摩滅	ナゲ	10YR7/2にぶい 黄相	10YR5/2灰黄相	青 3mm以下の石英・ 長石・黑色粘を含 む	良	
94	SK12	弥生土器	甕	口縁～ 体部	(18.2)	-	[7.8]	ハラ施文縦2 条・斜突文	摩滅	5YR6/6暗	7.5YR7/3にぶ い緑	青 2mm以下の石英・ 長石・赤色粘を含 む	良	
95	SK12	弥生土器	甕	口縁	-	-	[1.6]	摩滅	摩滅	7.5YR7/6暗	5YR7/6暗	3mm以下の石英・ 長石・1mm以下の 赤色粘を含む	良	
96	SK12	弥生土器	甕	口縁	(13.0)	-	[5.6]	ヨコナゲ	ナゲ・摩滅	7.5YR8/3浅黃 相	2.5YR6/8暗	青 3mm以下の石英・ 長石を含む	良	
97	SK12	弥生土器	甕	口縁	-	-	[2.4]	ハラ施文縦8 条	ナゲ	5YR5/3にぶい 赤暗	5YR5/4にぶい 赤暗	3mm以下の石英・ 長石・赤色粘を含 む	良	
98	SK12	弥生土器	甕	体部	-	-	[3.3]	ハラ施文縦5 条	摩滅	10YR6/6深暗	10YR6/6暗	3mm以下の石英・ 長石・赤色粘を含 む	良	
99	SK12	弥生土器	不明	体部	-	-	[4.0]	ハラ施文縦2 条	ナゲ	10YR8/1浅黃相	7.5YR7/4にぶ い緑	3mm以下の石英・ 長石を含む	良	
100	SK12	弥生土器	不明	体部	-	-	[2.4]	摩滅	摩滅	7.5YR8/4浅黃 相	10YR7/3にぶい 黄相	3mm以下の石英・ 長石・赤色粘を含 む	良	
101	SK12	弥生土器	甕	体部	-	-	[4.7]	ナゲ	摩滅	7.5YR8/4浅黃 相	7.5YR5/1開灰	3mm以下の石英・ 長石・赤色粘・白 色粘を含む	良	
102	SK12	弥生土器	甕	底部	-	(8.0)	[5.2]	ヨコナゲ	摩滅	5YR7/6暗	10YR5/1開灰	3mm以下の石英・ 長石を含む	良	
103	SK12	弥生土器	甕	底部	-	(7.4)	[5.2]	ナゲ・摩滅	摩滅	5YR7/6暗	7.5YR8/4浅黃 相	10YR5/1開灰の 石英・長石を含む	良	
104	SK13	弥生土器	甕	口縁	-	-	[1.3]	摩滅	摩滅	10YR7/4にぶい 黄相	10YR7/4にぶい 黄相	3mm以下の石英・ 長石・赤色粘を含 む	良	口縫端部・深 化
105	SK13	弥生土器	甕	口縁	-	-	[2.1]	ナゲ・摩滅	ナゲ	7.5YR6/4にぶ い緑	7.5YR6/6暗	2mm以下の石英・ 長石・赤色粘を含 む	良	
106	SK13	弥生土器	甕	口縁	-	-	[3.1]	ハラ施文縦・摩 滅	ナゲ	7.5YR6/6暗	5YR5/6暗	2mm以下の石英・ 長石・赤色粘・黑 色粘を含む	良	
107	SK13	弥生土器	甕	口縁	-	-	[3.4]	ハラ施文縦5 条・ナゲ・摩滅	ナゲ・摩滅	7.5YR4/3暗	10YR7/3にぶい 黄相	2mm以下の石英・ 長石・赤色粘を含 む	良	
108	SK13	弥生土器	甕	口縁	-	-	[5.5]	ナゲ	ナゲ	2.5YR8/1灰白	2.5YR8/1灰白	2mm以下の石英・ 長石・赤色粘・黑 色粘を含む	良	内・外表面・黑 化
109	SK13	弥生土器	甕	体部	-	-	[11.3]	突唇・摩滅	摩滅	10YR7/2にぶい 黄相	10YR7/2にぶい 黄相	4mm以下の石英・ 長石・赤色粘を含 む	良	
110	SK13	弥生土器	甕	底部	-	-	[6.0]	突唇・摩滅	突唇・摩滅	10YR7/4にぶい 黄相	2.5YR8/1灰白	3mm以下の石英・ 長石・赤色粘・黑 色粘を含む	良	
111	SK13	弥生土器	不明	体部	-	-	[3.8]	突唇・ナゲ	摩滅	2.5YR3/1黒褐	10YR8/2灰白	2mm以下の石英・ 長石・赤色粘を含 む	良	外・面・黒化
112	SK13	弥生土器	不明	体部	-	-	[4.4]	突唇・ナゲ	ナゲ	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	3mm以下の石英・ 長石・赤色粘・黑 色粘を含む	良	
113	SK13	弥生土器	甕	底部	-	(9.7)	[8.7]	ナゲ	ナゲ	2.5YR7/4深赤	10YR8/2暗	2mm以下の石英・ 長石・赤色粘を含 む	良	
114	SK13	弥生土器	甕	底部	-	(6.6)	[7.3]	摩滅	摩滅	5YR7/6暗	10YR5/1開灰	2mm以下の石英・ 長石・2mm以下の 赤色粘を含む	良	
115	SK13	弥生土器	甕	底部	-	7.0	[6.1]	摩滅	摩滅	10YR8/2灰白	7.5YR8/3浅黃 相	3mm以下の石英・ 長石・1mm以下の 赤色粘を含む	良	

標図番号	道標名/層位	種類	器種	部位	法量(cm)		調整		色調		地土	焼成	備考	
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
116	SK14	弥生土器	甕	口縁	—	—	[3.9]	沈縫・刻目・ナダ・摩滅	摩滅	7.5H85/6浅黄褐	10H87/3にぶい黄褐	3mm以下の石英・青長石・赤色粒を含む	良	
117	SK14	弥生土器	甕	口縁	—	—	[4.4]	沈縫・刻目・ナダ	ナダ	10H84/4褐	7.5H85/4にぶい褐	3mm以下の石英・青長石・赤色粒を含む	良	
118	SK14	弥生土器	甕	口縁	—	—	[3.9]	沈縫・刻目・ナダ	ナダ	N3/暗灰	10H86/3にぶい黄褐	3mm以下の石英・青長石・赤色粒を含む	良	
119	SK14	弥生土器	甕	口縁	—	—	[1.9]	沈縫・摩滅	摩滅	7.5H86/4にぶい褐	10H87/3にぶい黄褐	3mm以下の石英・青長石・赤色粒を含む	良	
120	SK14	弥生土器	甕	口縁～頭部	[19.4]	—	[9.1]	沈縫・ナダ・摩滅	ナダ・摩滅	5H86/6褐	5H86/4にぶい青	3mm以下の石英・青長石・赤色粒を含む	良	
121	SK14	弥生土器	甕	頭部	—	—	[5.6]	沈縫・摩滅	摩滅	2.5H81/1灰白	2.5H81/1灰白	4mm以下の石英・青長石を含む	良	
122	SK14	弥生土器	甕	つまみ頭	5.2	—	[7.2]	摩滅	摩滅	7.5H88/4浅黄褐	7.5H88/3浅黄褐	3mm以下の石英・青長石・赤色粒を含む	良	
123	SK14	弥生土器	甕	底部	—	(7.8)	[11.6]	ハケ目・摩滅	摩滅	7.5H87/3にぶい褐	7.5H86/3にぶい褐	3mm以下の石英・青長石を多く含む	良	
124	SK14	弥生土器	甕	底部	—	(8.0)	[2.9]	抜ナダ・指押さえ	摩滅	2.5H86/6煙	7.5H87/4にぶい褐	3mm以下の石英・青長石を含む	良	
125	SB01	弥生土器	甕	口縁	—	—	[3.6]	沈縫・ヨコナダ	摩滅	H86/1黒褐	5H87/4にぶい青	3mm以下の石英・青長石を含む	良	
126	SB02	弥生土器	不明	体部	—	—	[4.6]	沈縫・摩滅	摩滅	10H86/3にぶい黄褐	10H88/2灰白	2mm以下の石英・青長石・赤色粒・黒色粒を含む	良	
127	SB02	弥生土器	不明	体部	—	—	[3.7]	実帶・摩滅	安帝・摩滅	2.5H86/4にぶい褐	7.5H86/4にぶい褐	2mm以下の石英・青長石・赤色粒を含む	良	
128	SA01/SP 025	土師質土器	小瓶	口縁～底部	—	—	[1.3]	凹輪ナダ・摩滅	凹輪ナダ	10H87/3にぶい黄褐	7.5H87/4にぶい黄褐	1mm以下の石英・青長石・赤色粒を含む	良	
129	SA01/SP 031	土師質土器	小瓶	口縁～底部	—	—	[1.5]	凹輪ナダ・摩滅	摩滅	10H87/3にぶい黄褐	10H88/3浅黄褐	精良 長石を含む	良	
130	SA01/SP 029	土師質土器	小瓶	口縁～底部	—	—	[2.25]	凹輪ナダ・底部・凹輪糸切り	凹輪ナダ	7.5H87/4にぶい褐	7.5H87/4にぶい褐	0.5mm以下の長石を一部含む	良	
131	SA01/SP 025	土師質土器	小瓶	口縁～底部	(7.6)	(6.4)	[1.4]	凹輪ナダ・底部・凹輪糸切り	凹輪ナダ・摩滅	10H88/4浅黄褐	7.5H88/4浅黄褐	2mm以下の長石を含む	良	
132	SA01/SP 024	土師質土器	小瓶	口縁～底部	(7.9)	(6.4)	[1.05]	凹輪ナダ・底部・凹輪糸切り	凹輪ナダ	10H87/4にぶい黄褐	10H87/4にぶい黄褐	1mm以下の石英・長石を少含む	良	
133	SA01/SP 024	土師質土器	小瓶	口縁～体部	(8.4)	(6.8)	[1.1]	凹輪ナダ・底部・凹輪糸切り	凹輪ナダ	10H87/4にぶい黄褐	10H87/2にぶい黄褐	0.5mm程度の長石・チャートを含む	良	
134	SA01/SP 027	土師質土器	小瓶	口縁～底部	(8.5)	(5.9)	[1.4]	凹輪ナダ・底部・凹輪糸切り	凹輪ナダ	7.5H88/4浅黄褐	7.5H88/3浅黄褐	1mm程度の石英・長石を含む	良	
135	SA01/SP 025	土師質土器	小瓶	口縁～底部	(8.0)	(6.0)	[1.3]	凹輪ナダ・底部・凹輪ヘラ削り	凹輪ナダ	5H86/4にぶい	7.5H87/4にぶい	0.5mm程度の長石・チャートを含む	良好	
136	SA01/SP 027	土師質土器	小瓶	口縁～底部	(8.6)	(5.0)	[1.4]	凹輪ナダ・底部・凹輪ヘラ削り	凹輪ナダ	2.5H7/1灰白	2.5H8/1灰白	0.5mm以下の長石を多く含む	良好	
137	SA01/SP 025	土師質土器	小瓶	口縁～底部	(8.6)	(6.0)	[1.45]	凹輪ナダ・底部・凹輪ヘラ削り	凹輪ナダ	7.5H88/3浅黄褐	7.5H88/3浅黄褐	1mm以下の石英・長石・赤色粒を含む	良	
138	SA01/SP 030	土師質土器	小瓶	完形	8.8	5.8	1.5	凹輪ナダ・底部・凹輪ヘラ削り(左)	凹輪ナダ・ナダ	7.5H88/3浅黄褐	7.5H88/6浅黄褐	1mm程度の長石を多く含む	良	内面付着物有
139	SA01/SP 032	須恵器	楕	口縁～体部	—	—	[3.5]	凹輪ナダ・ナダ	ココナダ・楕ナダ	5H86/1灰白	5H86/1灰白	0.5mm程度の長石を含む	良好	口縫部・黒色化
140	SA01/SP 031	須恵器	楕	口縁	(15.8)	—	[2.9]	凹輪ナダ・ヨコ方向のミガキ	凹輪ナダ・斜め方向のミガキ	N5/灰	2.5H7/1灰白	精良 ショットガラスを含む	良好	内部口縫・外側・黒色化
141	SA01/SP 021	土師質土器	楕	口縁	—	—	[3.6]	ナダ後和いハケ	ナダ	10H85/5灰黄褐	10H87/3にぶい黄褐	2mm程度の石英・長石を含む	良	
142	SA01/SP 033	土師質土器	楕	口縁	—	—	[5.7]	ヨコナダ・摩滅	ヨコナダ・ナダ	7.5H88/6褐	10H80/1黒褐	0.5mm程度の長石・チャートを含む	良	
143	SA02/SP 037	土師質土器	小瓶	口縁～底部	—	—	[1.3]	凹輪ナダ	凹輪ナダ	5H87/6褐	10H88/4浅黄褐	0.5~1.5mm程度の長石・チャートを含む	良	
144	SA02/SP 039	土師質土器	小瓶	口縁～底部	(7.8)	(5.6)	1.4	凹輪ナダ・一部ハケ目	凹輪ナダ	5H87/4にぶい	5H87/4にぶい	0.5mm以下のみの石英・長石を含む	良	

標因 番号	造構名 /層位	種類	器種	部位	法量(cm)			調整		色調		胎土	焼成 備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
145	Sa02/SP 036	土師質土器	小皿	口縁～ 底部	(7.6)	(7.0)	1.2	回転ナデ・底 部：回転舟切り	回転ナデ	103W4/1灰白	103W4/4青	精良 0.5mm以下の長 石・赤色粒を含む	食
146	Sa02/SP 044	土師質土器	小皿	口縁～ 底部	(8.2)	(5.6)	1.5	回転ナデ・底 部：回転舟切り	回転ナデ	7.5W7/3に5 1+穀	7.5W7/3に5 1+穀	精良 1mm以下の石英・ 長石・赤色粒を含む	食
147	Sa02/SP 038	土師質土器	小皿	口縁～ 底部	8.0	5.7	1.3	回転ナデ・底 部：回転舟切り	回転ナデ・摩滅 4根	7.5W8/6浅黃 4根	2.5W7/1灰白	精良 0.5mm以下の長 石・赤色粒を含む	食
148	Sa02/SP 038	土師質土器	小皿	口縁～ 底部	7.9	6.3	1.6	回転ナデ・底 部：回転舟切り (右)	回転ナデ	103W5/2灰黃相 模	103W4/1灰白	精良 0.5mm以下の青 石・赤色・チャーブ を多く含む	食
149	Sa02/SP 046	土師質土器	小皿	口縁～ 底部	(8.6)	—	[1.6]	回転ナデ・底 部：へり切り?	回転ナデ	2.5W8/1灰白	2.5W8/2灰白	精良 0.5mm以下の長 石を含む	食
150	Sa02/SP 036	土師質土器	小皿	口縁～ 底部	(8.4)	(5.6)	[1.2]	回転ナデ・底 部：回転舟切り	回転ナデ	5W7/6穀	5W7/4に5 1+穀	精良 2mm以下の石英・ 長石を含む	食
151	Sa02/SP 048	土師質土器	小皿	口縁～ 底部	8.2	5.6	1.3	回転ナデ・摩 滅・底部：回転 舟切り(右)	回転ナデ	2.5W7/2灰黃 相	103W8/5浅黃相	精良 0.5mm以下の長 石・チャーブを含む	食
152	Sa02/SP 038	土師質土器	小皿	口縁～ 底部	(8.5)	(5.6)	1.6	回転ナデ・回転 舟切り後板状 压痕	回転ナデ	7.5W7/4に灰 穀	7.5W8/4浅黃 相	精良 0.5～1mm程度の 長石・赤色・チャーブ を多く含む	食
153	Sa02/SP 048	土師質土器	小皿	口縁～ 底部	(7.6)	(5.6)	1.4	回転ナデ・底 部：回転舟切り (左) 後板状 压痕	回転ナデ	2.5W8/1灰白	2.5W8/1灰白	精良 1mm以下の石英・ 長石を含む	食
154	Sa02/SP 045	土師質土器	杯	底部	—	(7.0)	[1.6]	回転ナデ・底 部：回転舟切り (右) 後板状 压痕	回転ナデ	103W7/3に5 1+穀	7.5W7/3に5 1+穀	精良 0.5mm以下の石 英・長石を含む	食好
155	Sa02/SP 038	土師質土器	杯	口縁～ 底部	(14.0)	(7.6)	3.6	回転ナデ・回転 舟切り(右)	回転ナデ・ナデ	7.5W6/6穀	5W6/6穀	精良 1mm程度の石英・ 長石・チャーブを多 く含む	食
156	Sa02/SP 038	土師質土器	瓶	口縁～ 体部	(1.5)	—	[3.7]	ヨコナデ・押 さえ	掌誠	2.5W8/2灰白	2.5W8/2灰白	精良 0.5～1mm程度の 長石・赤色粒を含 む	食
157	Sa02/SP 043	須恵器	桙	口縫	(14.2)	—	[2.0]	回転ナデ	回転ナデ	NB/灰白	NB/灰白	精良 2mm程度の長石を 少含む	食好 SHP000出土 物等と接合・ 13縦部黒色化
158	Sa02/SP 036	須恵器	桙	口縫～ 体部	(15.2)	—	[3.2]	回転ナデ	回転ナデ・板ナ デ	103W/1灰白	103W/1灰白	精良 0.5～1mm以下の 石英・長石を含む	食好 13縦部黒色化
159	Sa02/SP 038	須恵器	桙	底部	—	4.9	[0.9]	ヨコナデ・貼付 高台	ナデ	5W8/1灰白	5W7/1灰白	精良 0.5mm程度の長 石・チャーブを含む	食好
160	Sa02/SP 038	瓦器	桙	口縫～ 体部	(13.9)	—	[3.6]	ヨコナデ・押 さえ・ナデ	ヨコナデ・ミガ キ	N5/灰	N6/灰	精良 0.5mm程度の長 石をわずかに含む	食好
161	Sa02/SP 038	瓦器	桙	口縫～ 体部	(15.2)	—	[4.4]	ヨコナデ・押 さえ	ヨコナデ・ミガ キ	N5/灰	N6/灰	精良 0.5mm程度の長 石を少含む	食好
162	Sa02/SP 038	瓦器	桙	底部	—	(5.4)	[1.1]	ヨコナデ・貼付 高台	ナデ・ミガキ	N4/灰	N4/灰	精良 0.5mm以下の長 石を含む	食好
163	Sa02/SP 045	土師質土器	鍋	口縫	—	—	[5.4]	ヨコナデ	ヨコナデ	7.0W8/1灰白	103W8/2灰白	1mm以下の石英・ 長石・赤色粒を含 む	食
164	Sa01/SP 070	土師質土器	鍋	口縫～ 体部	—	—	[5.7]	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ	5W6/4に5 1+穀	7.5W6/4浅黃 相	1mm以下の石英・ 長石を含む	食 外縁・煤付着
165	Sa02/6	土師質土器	小皿	口縁～ 底部	—	—	[0.75]	回転ナデ・底 部：回転舟切り	回転ナデ	5W7/6穀	5W6/6穀	精良 0.5mm程度の長 石をチャーブを多く 含む	食
166	Sa153	土師質土器	小皿	口縁～ 底部	(6.8)	(5.6)	[1.2]	回転ナデ・底 部：回転舟切り	回転ナデ	7.5W7/2明晦 相	7.5W7/2明晦 相	2mm以下の長石・ 赤色粒を含む	食
167	Sa948	土師質土器	小皿	口縁～ 底部	(8.2)	(7.6)	[1.2]	回転ナデ・底 部：回転舟切り	摩滅	5W7/6穀	5W7/6穀	2mm以下の石英・ 長石を含む	食
168	Sa994	土師質土器	小皿	口縁～ 底部	(8.6)	(7.6)	1.2	回転ナデ・底 部：回転舟切り	回転ナデ	5W6/6穀	5W6/6穀	1mm程度の石英・ 長石・赤色粒を含 む	食
169	Sa980	土師質土器	小皿	口縁～ 底部	(7.6)	(6.8)	[1.55]	回転ナデ・底 部：回転舟切り (右)	回転ナデ・見込 舟	5W6/4に5 1+穀	5W6/4に5 1+穀	1mm以下の石英・ 長石・赤色粒を含 む	食
170	Sa152	土師質土器	小皿	口縁～ 底部	(8.8)	(6.2)	[1.6]	回転ナデ・底 部：回転舟切り (右)	回転ナデ	103W8/2灰白	103W8/1灰白	精良 1mm程度の石英・ 長石を含む	食
171	Sa941	土師質土器	小皿	口縁～ 底部	(8.4)	(6.3)	[1.4]	回転ナデ・底 部：回転舟切り	回転ナデ・ナデ	5W8/4灰白	7.5W8/1灰白	精良 0.5mm以下の石 英・長石を含む	食
172	Sa956	土師質土器	小皿	口縁～ 底部	(7.6)	(6.5)	[0.9]	回転ナデ・底 部：回転舟切り	回転ナデ	2.5W7/4浅黃 相	2.5W6/3灰白	2mm程度の石英・ 長石を含む	食
173	Sa128	土師質土器	小皿	口縁～ 底部	—	—	[1.55]	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	7.5W7/4に5 1+穀	7.5W7/4に5 1+穀	0.5～1mm程度の 石英・長石・赤色粒を 含む	食

排回 番号	道橋名 /層位	種類	器種	部位	法量(cm)			調整		色調		胎土	焼成	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
174	SP983	土師質土器	小瓶	口縁～底部	(7.3)	—	[1, 5]	回転ナデ・底部：削輪へラ切り	回転ナデ	SBT/6模	SBT/6模	精良	1mm以下の石英、長石を含む	良
175	SP951	土師質土器	小瓶	口縁～底部	(8.0)	(5.4)	[1, 25]	回転ナデ・底部：回転へラ切り	回転ナデ	SBT/7/4に近い模	SBT/7/4に近い模	精良	0.5mm程度の長石を含む	良
176	SP948	土師質土器	小瓶	口縁～底部	(8.0)	(5.6)	[1, 25]	回転ナデ・底部：回転へラ切り(右)	回転ナデ	SBT/1模灰	SBT/1模灰	精良	1mm以下の石英、長石を含む	良
177	SP987	土師質土器	小瓶	口縁～底部	(9.0)	(6.0)	1, 45	回転ナデ・底部：削輪へラ切り(右)後板状压痕	回転ナデ	SBT/4に近い模	SBT/4に近い模	精良	1mm以下の石英、長石を含む	良
178	SP126	土師質土器	杯	口縁～体部	(13.3)	—	[2, 8]	回転ナデ <sup>2</sup>	回転ナデ	SBT/6模	SBT/6模	精良	0.5mm程度の石英、長石を含む	良
179	SP980	土師質土器	桙	体部～底部	—	(5.6)	[2, 7]	回転ナデ・ナダ	板ナデ・ナダ	SBT/4浅黄模	SBT/4浅黄模	青	3mm以下の石英、長石を含む	良
180	SP104	須恵器	桙	底部	—	4.2	[1, 2]	回転ナデ・粘付高台	ナデ	SBT/1模白	SBT/1模白	精良	1mm以下の石英、長石を含む	良好
181	SP990	須恵器	桙	体部～底部	—	(4.6)	[2, 8]	回転ナデ後ヨコ方向のミガキ、板粘高台	回転ナデ	SBT/1模白	SBT/1模白	普	1mm以下の石英、長石を含む	良
182	SP941	瓦器	桙	口縁	—	—	[2, 8]	ヨコナデ <sup>2</sup> ・ミガキ	ヨコナデ・ヨコ方向のミガキ	NB/灰	NB/灰	精良	1mm程度の石英、長石を含む	極悪度
183	SP978	瓦器	桙	口縁	—	—	[1, 6]	ヨコナデ <sup>2</sup> ・ミガキ、ヨコ方向のミガキ	ヨコナデ・ヨコ方向のミガキ	SBT/1模白	NB/灰	精良	0.5mm程度の長石を少含む	良好
184	SP948	瓦器	桙	口縁	—	—	[2, 8]	回転ナデ <sup>2</sup>	回転ナデ後ミガキ	NB/1模白	NB/1模白	精良	0.5mm以下の石英、長石を含む	良好
185	SP990	瓦器	桙	口縁～体部	—	—	[3, 3]	ヨコナデ・押捺	ヨコナデ・ヨコ方向のミガキ	NB/灰	NB/灰	精良	1mm程度の長石を少含む	良好
186	SP935	瓦器	桙	口縁～体部	—	—	[3, 2]	ヨコナデ・ナデ・押捺さえ	ヨコナデ後ヨコ方向のミガキ	SBT/1模	NB/灰	精良	0.5mm以下の石英、長石を含む	良好
187	SP179	瓦器	桙	口縁～体部	—	—	[3, 1]	ヨコナデ・押捺さえ	ヨコナデ後ミガキ	NB/灰	NB/灰	精良	1mm以下の石英、長石を含む	良好
188	SP118	瓦器	桙	口縁～体部	(15.6)	—	[3, 7]	ヨコナデ・押捺さえ	ヨコナデ・ヨコ方向のミガキ	NB/灰	NB/灰	精良	1mm以下の石英、長石を含む	良好
189	SP118	瓦器	桙	口縁～体部	—	—	[4, 6]	ヨコナデ・工具痕の指押さえ、指押さえ	ヨコナデ・ヨコ方向のミガキ	NB/灰	NB/灰	精良	0.5mm以下の石英、長石を含む	良好
190	SP920	瓦器	桙	口縁～底部	(12.8)	(3.4)	[3, 8]	ヨコナデ・ナダ	ヨコナデ・様方のミガキ・指押さえ	SBT/1模	SBT/1模	精良	4mm以下の長石を一部含む	良
191	SP120	青磁	桙	口縁	—	—	[3, 3]	施釉・織蓮文	施釉	胎土: SBT/1模白	模調: 5.56/3 チャーブ灰・文透: 7.55/3 模オリーブ	微	—	絶対異常
192	SP956	白磁	桙	口縁	(16.6)	—	[2, 9]	施釉	施釉	胎土: 10SBT/1 模調: 5.58/2K 模	模	—	内面一部釉膜剥離・胎土付着	良
193	SP968	土師質土器	足釜	口縁	—	—	[4, 6]	ヨコナデ・ナダ	ヨコナデ・一部指押さえ	SBT/3模灰	SBT/3模灰	精良	1mm以下の石英、長石を含む	良
194	SP122	土師質土器	足釜	口縁	—	—	[6, 6]	ヨコナデ・押捺さえ	ヨコ方向の板ナデ・ヨコナデ	SBT/3/1黒褐	SBT/3/1黒褐	精良	2mm程度の長石を含む	良
195	SP133	土師質土器	足釜	口縁	—	—	[2, 7]	ヨコナデ・ハク目	ヨコナデ・ハク目	10SBT/4模灰	10SBT/4模灰	精良	1~2mm程度の石英、長石を含む	良
196	SP170	土師質土器	足釜	口縁	—	—	[2, 9]	ヨコナデ・一部指押さえ	ヨコナデ・ヨコ方向のハク目	10SBT/3模灰	10SBT/3模灰	精良	2mm以下の長石を含む	良
197	SP147	須恵器	林	口縁	—	—	[3, 8]	叩き後回転ナダ <sup>2</sup>	回転ナデ	NB/1模白	NB/1模白	精良	1mm程度の石英、長石を含む	良好
198	SP958	須恵器	甕	口縁～頭部	—	—	[7, 8]	回転ナデ・格子印き目	回転ナデ	SBT/1模白	NB/1模白	精良	0.5mm程度のチリを含む	良好
199	SP958	須恵器	甕	頭部	—	—	[8, 1]	平行印き目	回転ナデ	NB/灰	NB/灰	精良	0.5mm程度のチリを含む	良好
200	SP958	須恵器	甕	体部	—	—	[7, 5]	格子印き目	指押さえ	SBT/1模白	SBT/1模灰	青	0.5~1mm程度の石英、長石を含む	良好
201	SP102	弥生土器	甕	頭部	—	—	[3, 2]	摩滅	摩滅	10SBT/3に近い模 黄褐	10SBT/3に近い模 黄褐	青	3mm以下の石英、青色鉄を含む	良
202	SP102	弥生土器	甕	頭部	—	—	[3, 7]	沈縫3条	ナデ	7.5BT/4に近い模 白	7.5BT/4に近い模 白	青	2mm以下の砂粒を含む	良

標図 番号	遺構名 /層位	種類	器種	部位	法量(cm)			調整		色調		胎土	焼成	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
203	SP103	弥生土器	甕	底部	—	6.5	[4.2]	指押さえ	ヨコナダ・指押 さみ	T.5H7/4に赤 黄緑	T.5H7/2に赤 黄緑	3mm程度の長石、 チャートを含む	良	
204	SP102	弥生土器	甕	口縁	—	(9.6)	[3.2]	摩滅	摩滅	10H8/2灰白	10H5/1黒灰	青	良	
205	SP953	弥生土器	甕	底部	—	(10.2)	[4.9]	摩滅	摩滅	2.5H7/3浅黄	10H7/2に赤い 黄緑	6.5mm以下の石英、 長石、赤鉄、 黒鉄を含む	良	
206	SE01(石 縫み内 部)	土師質土器	小瓶	口縁～ 底部	(8.4)	(6.0)	[1.2]	回転ナデ・回転 ヘア切り	回転ナデ・摩滅	2.5H6/6櫻	2.5H6/8櫻	1mm程度の石英、 青 長石・赤色鉄を含 む	良	
207	SE01(石 縫み内 部)	土師質土器	杯	完形	(10.8)	(5.4)	[2.65]	回転ナデ・摩滅	回転ナデ・摩滅	7.5H8/2灰白	10H8/2灰白	2mm以下の石英、 長石・赤色鉄を含 む	良	
208	SE01(石 縫み内 部)	須恵器	林	口縁	—	—	[2.2]	ナデ	ナデ・摩滅	H4/1灰	H6/1灰	1mm以下での灰英、 青 長石・赤色鉄・黑 色鉄を含む	良	
209	SE01(削 り方)	須恵器	楕	底部	—	(5.0)	[2.4]	回転ナデ・貼付 高台	回転ナデ・貼付 高台	7.5H8/1灰白	N8/灰白	3mm以下の長石を 含む	良好	
210	SE01(削 り方)	須恵器	甕	頸部	—	—	[6.6]	ヨコナダ・平行 印き目	ヨコナダ・ナ デ・当て具模	2.5H7/1灰白	2.5H7/1灰白	1mm以下の石英、 長石・赤色鉄・黑 色鉄を含む	良好	
211	SE01(削 り方)	瓦器	楕	底部	—	(5.8)	[1.2]	ヨコナダ・貼付 高台	摩滅	N6/灰	N5/灰	精良 0.5mm以下の長石を 含む	良好	
212	SE29	土師質土器	杯	口縁～ 底部	(11.6)	7.3	3.2	回転ナデ・裁 鋸	回転ナデ・モ ノヘア	2.5H8/1灰白	2.5H8/2灰白	精良 1mm以下の石英、 長石・赤色鉄を含む	良	
213	SD03	土師質土器	十手 鉢?	口縁	—	—	[4.9]	摩滅・一部ハガ 日本式・崩損	摩滅	7.5H6/6櫻	2.5H8/2浅黄	1mm程度の石英、 長石を含む	不良	
214	SD05	瓦器	楕	口縁	—	—	[2.2]	ヨコナダ	ヨコナダ後ヨコ 方向のミガキ	2.5H8/1灰白	N6/灰	精良 0.5mm程度の長石を 少量含む	良好	
215	西側現 在	土師質土器	杯	口縁～ 底部	(12.8)	6.8	2.5	回転ナデ・ミ ガ キ・底部・回転 切削後板状压 痕	回転ナデ	3H7/6櫻	2.5H6/3に赤 い櫻	3mm以下の石英、 長石・赤色鉄を含 む	良	
216	西側現 在	土師質土器	杯	口縁～ 底部	(12.6)	(6.2)	[3.1]	摩滅	摩滅	3H7/6櫻	3H7/4に赤 い櫻	3mm以下の石英、 長石・赤色鉄を含 む	良	
217	西側現 在	須恵器	楕	口縁～ 体部	(15.8)	—	[3.4]	回転ナデ	回転ナデ	7.5H7/1灰白	2.5G8/1灰白	精良 1mm以下の長石を 含む	良好	口縁部:黑色 化
218	西側現 在	青磁	楕	底部	—	(4.7)	[2.3]	クロマーラ削 り・削り出し高 台	ヨコナダ・施 釉	胎土:10Y8/1B リープ灰	10Y6/2オ リープ灰	青		

第4表 石器観察表

報告書 番号	遺構名/層位	種類	規格	石材	法量(cm)				備考			
					最大長	最大幅	最大厚	重量(g)				
S1	SK01	磨製石器	石包丁	結晶片岩	[2.0]	[4.45]	[1.6]	13.3				
S2	SK01	石器	磨石	砂岩	[9.7]	[13.0]	[5.9]	948.7				
S3	SK01	打製石器	石礫	サヌカイト	[1.25]	1.8	0.3	0.5				
S4	SK03	打製石器	石礫	サヌカイト	2.35	[1.6]	0.35	1.0				
S5	SK05	磨製石器	片刃石斧	結晶片岩	[6.35]	[3.65]	[1.1]	52.8				
S6	SK05	石器	磨石	砂岩	[11.1]	[9.8]	[4.25]	708.8				
S7	SK05	打製石器	スクレイパー	サヌカイト	[6.7]	[5.5]	0.5	31.5				
S8	SK05	打製石器	石礫	サヌカイト	2.2	1.45	0.3	0.7				
S9	SK11	磨製石器	石斧	結晶片岩	[9.85]	[6.8]	[4.1]	459.4	斧として使用できなくなった後、叩き石に転用。敲打痕有。			
S10	SK12	石核	石核	サヌカイト	6.6	4.9	2.4	132.3				
S11	SK14	石器	石礫	サヌカイト	[2.9]	[1.7]	0.35	1.5				
S12	SK14	打製石器	石礫	サヌカイト	3.15	1.6	0.2	1.2				
S13	SP994	打製石器	石礫	サヌカイト	1.4	1.4	0.25	0.4				

# 写 真 図 版



敲石に転用された磨製石斧（S9）



SK01 遺物出土状況（1, 10）南から



SK01 遺物出土状況（1, 10）



SK01 遺物出土状況（1, 10）西から



SK01 遺物出土状況 (I, 10) 北から



SK02 断面



SK03 断面



SK04 断面



SK05 断面



SK06 断面



SK07 断面



SK08 断面



SK09 断面



SK10 断面



SK12 断面



SK13・14 断面



SK13・14 完掘状況



SD01 断面



SD01 完掘状況



SH01 斜面状況



基礎部分全景



SA01, SA02, SD05 周辺完掘状況



SB01 付近完掘状況



西側搬乱付近完掘状況



SB01-SP070 半裁状況



SB01-SP092 完掘状況



SB01-SP099 半裁状況



SB01-SP106 半裁状況



SP030 遺物出土状況 (138)



SP038 遺物出土状況 (147, 155)



SP038 断面



SE01 アゼ取り外し前



SE01 井戸側内転石除去前 1



SE01 井戸側内転石除去後 1



SE01 井戸側内転石除去前 2



SE01 井戸側内転石除去後 2



SE01 断面



SK25 完掘状況



SK26 半截状況



SK27 完掘状況



SK29 半截状況



SK12, SK28, SK29 完掘状況



SD03, SP001 完掘状況



SD03 断面



SD04、SP002 完掘状況



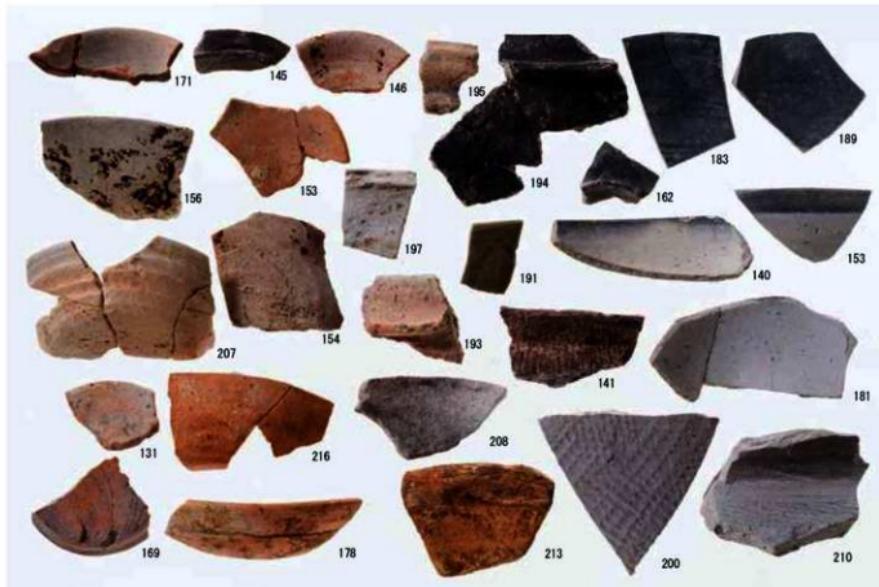
弥生時代遺物写真 1



弥生時代遺物写真 2



中世遺物写真 1



中世遺物写真 2

## 報告書抄録

ふりがな	みやにし・いつかくいせき（だいななじちょうさ）							
書名	宮西・一角遺跡（第7次調査）							
副書名	林町事務所兼倉庫建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第197集							
編著者名	梶原慎司、三輪望							
編集機関	高松市教育委員会							
所在地	〒760-8571 香川県高松市番町一丁目8番15号 TEL087-839-2660							
発行年月日	西暦2018年12月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	発掘期間	発掘 面積	発掘 原因
みやにし・いつかくいせき 宮西・一角遺跡	かわいはけん 香川県 たかまつし 高松市 はやしちょう 林町	市町村 37201	遺跡番号 10810	34° 17' 38"	134° 03' 48"	2018.2.21 ～ 2018.3.3	325 m <sup>2</sup>	林町事務所 兼倉庫建設
所収遺跡名	種別	主な時代		おもな遺構	おもな遺物		特記事項	
宮西・一角遺跡	集落跡	弥生時代前期末～中期初頭		土坑、溝、竪穴建物跡	弥生土器、石器			
		中世前半		柵列、掘立柱建物跡、溝	土師質土器、須恵器椀、瓦器椀、青磁、白磁			
要約	弥生時代前期末～中期初頭は、調査区全体に土坑が点在し、調査区東側で竪穴建物跡1棟（未掘削）や溝2条を検出した。 中世は調査区西側半分で13世紀前半を中心とした柵列、掘立柱建物跡を検出した。瓦器椀や青磁碗が出土しており、陸上交通の中継地もしくは拠点に隣接する集落の可能性がある。							

### 林町事務所兼倉庫建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

## 宮西・一角遺跡（第7次調査）

平成30年12月28日

編集	高松市教育委員会 高松市番町一丁目8番15号
発行	有限会社 KAZU 空調 高松市教育委員会
印刷	有限会社 中央ファイリング